

非常に好調な四半期、2024 年度の業績目標を裏付け

クレディ・アグリコル S.A.及びクレディ・アグリコル・グループの表示実績及び基礎的実績（2024 年度第 3 四半期）

	クレディ・アグリコル S.A.		クレディ・アグリコル・グループ	
	表示	基礎的	表示	基礎的
収益	64 億 8700 万ユーロ 前年同期比+2.3%	64 億 8400 万ユーロ 前年同期比+7.0%	92 億 1300 万ユーロ 前年同期比 - 0.4%	92 億 1000 万ユーロ 前年同期比+4.1%
経費	-36 億 8900 万ユーロ 前年同期比+9.2%	-36 億 5400 万ユーロ 前年同期比+8.2%	-55 億 9000 万ユーロ 前年同期比+6.2%	-55 億 5600 万ユーロ 前年同期比+5.5%
営業総利益	27 億 9900 万ユーロ 前年同期比 - 5.7%	28 億 3000 万ユーロ 前年同期比+5.5%	36 億 2300 万ユーロ 前年同期比 - 9.1%	36 億 5400 万ユーロ 前年同期比+2.0%
リスク 関連費用	-4 億 3300 万ユーロ 前年同期比+0.9%	-4 億 3300 万ユーロ 前年同期比+0.9%	-8 億 100 万ユーロ 前年同期比+15.6%	-8 億 100 万ユーロ 前年同期比+15.6%
純利益 グループ帰属分	16 億 6600 万ユーロ 前年同期比 - 4.7%	16 億 8600 万ユーロ 前年同期比+10.9%	20 億 8000 万ユーロ 前年同期比 - 12.8%	21 億ユーロ 前年同期比+1.5%
コスト比率	56.9% 前年同期比+3.6 ポイント	56.4% 前年同期比+0.6 ポイント	60.7% 前年同期比+3.7 ポイント	60.3% 前年同期比+0.8 ポイント

2024 年 9 ヶ月累計期間の業績は上昇。2024 年の純利益グループ帰属分 60 億ユーロ超の目標を裏付け

四半期業績は好調

- 純利益グループ帰属分は 8.2%増（2023 年度第 3 四半期の住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するベース効果を除く）
- 収益は高水準、基礎的な見通しが大幅に向上
- コスト比率は低水準、経常費用の 4.1%増を伴う事業部門の発展を下支え

全事業部門の活動が好調

- リテール・バンキング及び消費者金融の業績は堅調、良好な顧客獲得、フランスでのオン・バランスシートの預金の増加、イタリアでのオン・バランスシートの預金の安定、フランスの住宅ローン活動の緩やかな回復及び企業向け貸付組成の増加、国際的な貸付活動の高成長の継続、消費者金融活動の高止まりが後押し
- CIB、資産運用及び保険の事業モメンタムが好調、生命保険事業における多額の総資金流入、損害保険及び個人保険における活況の継続、堅調な資金流入と過去最高水準の運用資産、CIB の堅調な事業の継続と 9 ヶ月累計期間での過去最高収益を反映

継続中の戦略的プロジェクト

- 中国ではリース、欧州では自動車ローンで GAC と提携
- Merca Leasing の買収契約を締結
- Nexity Property Management の買収

非常に強固な資本・流動性ポジション

- クレディ・アグリコル S.A.の段階的導入 CET1 レシオは 11.7%
- CA グループの段階的導入 CET1 レシオは 17.4%

ドミニク・ルフェーブル

SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「当グループは今四半期、堅調な業績となりました。この業績は、あらゆる顧客のお役に立ち、積極的に経済を支える主導的な役割を果たしたいという当グループの意欲を高めるものです」

フィリップ・ブラサック

クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「クレディ・アグリコル S.A. は四半期ベースで、2025 年の野心的目標を 1 年前倒しすると
の 2024 年の業績見通しを裏付ける好業績となりました」

本プレスリリースは、クレディ・アグリコル S.A. に加え、クレディ・アグリコル S.A. の各事業体とクレディ・アグリコル S.A. の 62.4% を保有するクレディ・アグリコル地域銀行から構成されるクレディ・アグリコル・グループの業績についてコメントしています。基礎純利益計算のためのあらゆる指標において修正再表示されている特殊要因の詳細については、当プレスリリースの付属資料をご覧ください。

クレディ・アグリコル・グループ

当グループの活動

当四半期における当グループの営業活動は、すべての事業部門で引き続き順調に推移し、顧客獲得も高水準となりました。2024 年度第 3 四半期に、当グループはリテール・バンキング部門で 48 万 2,000 人の新規顧客を獲得し、顧客基盤は 10 万 4,000 人増加しました。具体的には、当四半期中、フランスのリテール・バンキング部門の新規顧客数が 38 万 3,000 人増、（イタリアとポーランドの）国際リテールバンキング部門の新規顧客数が 9 万 9,000 人増となり、顧客基盤も拡大しました（それぞれ 6 万 4,000 人増、4 万人増）。

2024 年 9 月 30 日現在、リテール・バンキング部門では、オン・バランスシートの預金がフランス及びイタリアで前年同期比 2.8%増の総額 8,300 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 3.1%増、イタリアで 0.4%減）となりました。貸付残高は、フランス及びイタリアで前年同期比 0.4%増の総額 8,760 億ユーロ（地域銀行及び LCL で 0.2%増、イタリアで 3.0%増）となりました。当四半期、フランスの住宅ローン組成は緩やかに増加し、2024 年度第 2 四半期比では地域銀行で 20%増、LCL で 73%増、また 2023 年度第 3 四半期比ではそれぞれ 11%減、17%増となりました。イタリアでは、2023 年度第 3 四半期のマーケティング・キャンペーン関連のベース効果により、CA イタリアの住宅ローン組成は 12%減少しました。しかし、2024 年第 2 四半期比では増加しました。損害保険のクロスセル・レート¹は、地域銀行では 43.8%（2023 年第 3 四半期と比べて 0.7 パーセント・ポイント増）、LCL では 27.9%（同 0.3 パーセント・ポイント増）、CA イタリアでは 20.0%（同 1.7 パーセント・ポイント増）に上昇しました。

資産運用では、資金流入がジョイント・ベンチャーを除いた中長期資産関連（90 億ユーロ増）をはじめとして、引き続き好調でした（合計 116 億ユーロの保険運用委託の終了を除いて、144 億ユーロ増）。ジョイント・ベンチャーの商業モメンタムも堅調でした。貯蓄・退職金では、クレディ・アグリコル・アシュアランスが高水準の総資金流入（72 億ユーロ、前年同期比 56%増）となり、組成におけるユニット・リンク型商品の比率は高水準（32.8%）で推移し、純資金流入は増加しプラスとなりました（16 億ユーロ増）。損害保険は、契約ポートフォリオの件数が前年同期比 5.1%増の 1,660 万件となりました。運用資産は再び過去最高水準となり、2023 年 9 月末と比べて、資産運用（2 兆 1,920 億ユーロ、11.1%増）、生命保険（3,432 億ユーロ、5.8%増）、Degroof Petercam の統合の恩恵を受けたウェルス・マネジメント（IWM と LCL のプライベートバンキングで 2,740 億ユーロ、46.9%増）で増加しました。

SFS 事業の活動も高水準で安定し、CAPFM の消費者金融残高（2023 年 9 月末に比べて 5.2%増）は残高全体の 53%²を占める自動車金融活動が原動力となり増加し、CAL&F の組成及びリース残高も増加しました（201 億ユーロ、2023 年 9 月末に比べて 8.8%増）。

大口顧客の勢いは力強く、法人営業及び投資銀行（9 か月間累計で過去最高）の収益は過去最高、資本市場及び投資銀行業務は資本市場の活動が原動力となり、融資活動は商業銀行業務の成長の恩恵を受けました。CACEIS もカストディ資産（5 兆 610 億ユーロ、2023 年 9 月末と比べて 12.1%増）と管理資産（3 兆 3,860 億ユーロ、同 4.2%増）が高水準となりました。当四半期は力強い商業的モメンタムとプラスの市場効果から恩恵を受けました。

当グループの各事業部門で、力強い活動が見られました（インフラを参照）。

¹ 自動車、住宅、健康、法務、すべての携帯電話または個人傷害保険

² CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

移行支援の継続

クレディ・アグリコル・アシュアランスは、2029 年までにポートフォリオの炭素強度を 50%（2019 年比）削減する目標³を発表し、新たな気候変動への取組に着手しました。

クレディ・アグリコル・グループもフランス預金供託公庫（CDC）のエネルギー及びエコロジー移行融資支援制度に参加することにしました。これにより、当グループは 2025 年 11 月まで、エネルギー及びエコロジーの移行に寄与する新規事業の資金調達に限り、最大 53 億ユーロの資金を調達できます。

当グループは引き続き、エネルギー移行を促進するための多数の融資及び投資を実施しています。これにより、クレディ・アグリコル・グループの低炭素エネルギー融資⁴のエクスポージャーは 2020 年末から 2024 年 9 月までに倍増し、2024 年 9 月 30 日時点で 219 億ユーロとなりました。さらに、クレディ・アグリコル・アシュアランスの再生可能エネルギー生産への融資は 2022 年末に比べて 17%増加し、2024 年 6 月 30 日時点で 13.8 ギガワットとなりました。

最後に、クレディ・アグリコル CIB のグリーンローンのポートフォリオ⁵は、2022 年末から 2024 年 9 月までに 67%増加し、2024 年 9 月 30 日時点で 207 億ユーロとなりました。

³ 上場株式及び社債投資ポートフォリオならびに直接保有不動産のカーボンフットプリント（CO₂換算トン／投資百万ユーロ）を 50%削減（従来の目標は 2025 年に上場株式及び社債投資ポートフォリオのカーボンフットプリントを 2019 年比で 25%削減）

⁴ クレディ・アグリコル・グループのすべての事業体の顧客が生産する再生可能エネルギーからなり、クレディ・アグリコル CIB の核エネルギー残高を含む低炭素エネルギー残高

⁵ 2023 年 11 月に公表されたグループ・グリーンボンド・フレームワークの適格基準に沿ったクレディ・アグリコル CIB グリーン資産ポートフォリオ

当グループの業績

2024 年度第 3 四半期には、クレディ・アグリコル・グループの表示純利益グループ帰属分は、2023 年度第 3 四半期と比べて 12.8%減の 20 億 8,000 万ユーロでした。これは、2023 年度第 3 四半期に重要な特殊要因があったためです。

2024 年度第 3 四半期には特殊要因が、クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分に 2,000 万ユーロのマイナスの影響を与えました。当該特殊要因は、DVA（Debt Valuation Adjustment）、FVA（Funding Valuation Adjustment）の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における資本市場と投資銀行業務の担保付き融資に係る 300 万ユーロ増、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 100 万ユーロ減など、変動の大きい経常的な会計項目からなります。これらの経常項目のほかに、今四半期に固有のその他の項目がありました。すなわち、大口顧客部門の純利益グループ帰属分における ISB の統合費用による 1,400 万ユーロ減、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分における Degroof Petercam の統合費用による 600 万ユーロ減、プライベート・バンキング部門の純利益グループ帰属分における Degroof Petercam の買収費用による 200 万ユーロ減です。

2023 年度第 3 四半期の特殊要因は、純利益グループ帰属分に 3 億 1,700 万ユーロのプラスの累積影響を及ぼしました。これには、大口顧客部門の DVA 及びヘッジ項目による 100 万ユーロ増、住宅購入貯蓄引当金の戻入による 2 億 9,700 万ユーロ増（LCL 部門で 3,800 万ユーロ増、コーポレート・センター部門で 1 億 7,100 万ユーロ増、地域銀行で 8,800 万ユーロ増）、持分法による SFS 部門のモビリティ事業⁶の影響による 2,600 万ユーロ減、その他資産の損益による 4,500 万ユーロ増が含まれました。

これらの特殊要因を除いたクレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分⁷は、前年同期比 1.5%増の 21 億万ユーロでした。

クレディ・アグリコル・グループ 表示実績と基礎的実績（2024 年度第 3 四半期と 2023 年度第 3 四半期）

€m	Q3-24 stated	Specific items	Q3-24 underlying	Q3-23 stated	Specific items	Q3-23 underlying	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlying
Revenues	9,213	3	9,210	9,249	402	8,847	(0.4%)	+4.1%
Operating expenses excl.SRF	(5,590)	(34)	(5,556)	(5,265)	0	(5,265)	+6.2%	+5.5%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	3,623	(31)	3,654	3,984	402	3,582	(9.1%)	+2.0%
Cost of risk	(801)	0	(801)	(693)	0	(693)	+15.6%	+15.6%
Equity-accounted entities	61	-	61	37	(26)	63	+65.7%	(3.5%)
Net income on other assets	(5)	(3)	(2)	69	61	9	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	2,877	(34)	2,912	3,397	436	2,961	(15.3%)	(1.6%)
Tax	(587)	8	(595)	(810)	(120)	(691)	(27.6%)	(13.8%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	2	-	2	(100.0%)	(100.0%)
Net income	2,291	(26)	2,317	2,588	317	2,272	(11.5%)	+2.0%
Non controlling interests	(211)	6	(217)	(204)	-	(204)	+3.4%	+6.5%
Net income Group Share	2,080	(20)	2,100	2,384	317	2,068	(12.8%)	+1.5%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	60.7%		60.3%	56.9%		59.5%	+3.7 pp	+0.8 pp

2024 年度第 3 四半期の基礎収益は大半の事業ラインの好業績が原動力となり、前年同期に比べて 4.1%増の 92

⁶CA コンシューマー・ファイナンス・グループのモビリティ事業の再編は、事業資産の譲渡、受払補償金、CA オートバンク（旧 FCA バンク）の完全連結の会計処理、CA コンシューマー・ファイナンス・グループ内の自動車金融事業の再編（特にアプリケーション・ソリューションの見直し）により、2023 年第 3 四半期に非経常的な影響を及ぼしました。

⁷特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

億 1,000 万ユーロとなりました。フランスのリテール・バンキング部門は基礎収益を伸ばし（1.8%増）、アセット・ギャザリング部門は好調な事業モメンタムと Degroof Petercam の統合から恩恵を受け、大口顧客部門は ISB の統合に加え、すべての事業ラインで高収益を上げました。一方、国際リテール・バンキング部門と専門金融サービス部門は、金利低下の悪影響により若干の減収となりました。2024 年度第 3 四半期の**基礎営業費用**は前年同期比 5.5%増の 55 億 5,600 万ユーロとなりました。これは、連結範囲変更の影響、税金の基礎効果、事業の発展支援によるものです。全体として、当グループの**基礎コスト比率**は 2024 年度第 3 四半期に 60.3%となり、0.8%パーセントポイント増とやや上昇しました。その結果、**基礎営業総利益**は前年同期比 2.0%増加して 36 億 5,400 万ユーロとなりました。

基礎信用リスク関連費用は、前年比 15.6%増の 8 億 100 万ユーロでした。当該費用は、正常債権（レベル 1 及びレベル 2）に対する保守的な引当金の 9,300 万ユーロ増、法人市場における債務不履行の増加に伴う確認済みリスク（レベル 3）関連費用の 7 億 900 万ユーロ増、それに多数の特定の企業グループに関する追加引当金が含まれます。また、その他のリスクに関する 100 万ユーロの戻入がありました。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。第 3 四半期の加重経済シナリオは前四半期から据え置かれ、楽観的なシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に+1.2%、2025 年に+1.5%）と楽観的でないシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に-0.2%、2025 年は+0.5%）が含まれています。**残高に対するリスク関連費用⁸**はローリング 4 四半期ベースで 26 ペーシス・ポイント、年換算の四半期ベースで 27 ペーシス・ポイントでした⁹。

税引前基礎利益は、前年比 1.6%減の 29 億 1,200 万ユーロでした。これには、6,100 万ユーロの持分法適用会社の寄与（-3.5%）、それに当四半期にマイナス 200 万ユーロとなったその他の資産からの純利益が含まれます。**基礎税金費用**は当期、**13.8%減少**し、税率は 3.0 パーセント・ポイント減の 20.9%となりました。非支配持分控除前の基礎純利益は 2.0%増加して 23 億 1,700 万ユーロとなりました。非支配持分は 6.5%増加しました。最後に、**基礎純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 3 四半期から **1.5%増の 21 億ユーロ**でした。

⁸ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベースス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

⁹ 年換算の残高に対するリスク関連費用（ベースス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

クレディ・アグリコル・グループ – 表示実績と基礎的実績（2024 年 9 ヶ月累計期間と 2023 年 9 ヶ月累計期間）

€m	9M-24 stated	Specific items	9M-24 underlying	9M-23 stated	Specific items	9M-23 underlying	Δ 9M/9M stated	Δ 9M/9M underlying
Revenues	28,244	117	28,127	27,722	758	26,965	+1.9%	+4.3%
Operating expenses excl.SRF	(16,866)	(84)	(16,782)	(15,782)	(18)	(15,764)	+6.9%	+6.5%
SRF	-	-	-	(620)	-	(620)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	11,378	33	11,345	11,321	739	10,581	+0.5%	+7.2%
Cost of risk	(2,324)	(20)	(2,304)	(2,179)	(84)	(2,095)	+6.6%	+10.0%
Equity-accounted entities	203	(0)	203	190	(39)	229	+6.7%	(11.2%)
Net income on other assets	(19)	(23)	4	107	89	18	n.m.	(78.5%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	9,238	(10)	9,248	9,438	705	8,733	(2.1%)	+5.9%
Tax	(2,104)	(4)	(2,100)	(2,293)	(180)	(2,113)	(8.2%)	(0.6%)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	7	-	7	(100.0%)	(100.0%)
Net income	7,134	(14)	7,148	7,153	525	6,628	(0.3%)	+7.9%
Non controlling interests	(643)	17	(659)	(619)	(0)	(619)	+3.8%	+6.5%
Net income Group Share	6,491	3	6,489	6,534	525	6,009	(0.6%)	+8.0%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	59.7%		59.7%	56.9%		58.5%	+2.8 pp	+1.2 pp

2024 年 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 65 億 3,400 万ユーロから 0.6%減少して 64 億 9,100 万ユーロとなりました。

2024 年 9 ヶ月間累計期間の特殊要因には当該期間の地域銀行の特殊要因（住宅購入貯蓄引当金戻入の 4,700 万ユーロ増）とクレディ・アグリコル S.A.の特殊要因が含まれており、クレディ・アグリコル S.A.の項に詳述されています。

特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**は、前年同期と比べて 8.0%増の **64 億 8,900 万ユーロ**でした。

基礎収益は 281 億 2,700 万ユーロとなり、前年同期と比べて **4.3%増加**しました。増収はすべての事業部門の成長によるもので、コーポレート・センター部門を除いた合計では前年同期と比べて 4.6%増加しました。

基礎営業費用は主に、各部門で詳述するインフレ下での報酬の増加、事業の発展のサポート、IT 費用、それに連結範囲変更の影響により、SRF を除くと、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 6.5%増加して 167 億 8,200 万ユーロとなりました。2024 年 9 ヶ月累計期間の**基礎コスト比率**は、SRF を除くと、前年同期と比べて 1.2 パーセント・ポイント上昇し、59.7%となりました。2023 年の SRF は 6 億 2,000 万ユーロでした。

基礎営業総利益は 113 億 4,500 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 7.2%増加しました。2024 年 9 ヶ月累計期間の**基礎リスク関連費用**は 23 億 400 万ユーロ（うち、正常債権（ステージ 1 及びステージ 2）に関連するリスク関連費用が - 1 億 7,800 万ユーロ、確認済みリスク関連費用が - 21 億 4,800 万ユーロ、主に法定引当の戻入に関連するその他のリスクが +2,200 万ユーロ）に増加し、前年同期と比べて 10.0%増加しました。

2024 年 9 月 30 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル・グループの資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 45%）と企業向け（残高総額の 33%）に重点が置かれています。2024 年 9 月末時点の貸倒引当金は 213 億ユーロ（地域銀行は 117 億ユーロ）で、うち 41%（地域銀行は 47%）は正常債権に対する引当金でした。これらの貸倒引当金を慎重に管理することで、クレディ・アグリコル・グループは 2024 年 9 月末時点で 82.8%の要注意債権引当率を確保しています。

2024 年 9 ヶ月累計期間の他の資産に関する基礎純利益は 400 万ユーロでした（2023 年 9 ヶ月累計期間は 1,800 万ユーロ）。非継続事業と非支配持分控除前の税引前基礎利益は 5.9%増加して 92 億 4,800 万ユーロとなりました。税金費用は 0.6%減少して 21 億ユーロとなり、基礎的実効税率は 2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1.6 パーセント・ポイント低下し、23.2%となりました。その結果、非支配持分控除前の基礎純利益は 7.9%増加しました。非支配持分は 2024 年 9 ヶ月累計期間には 6.5%増加して 6 億 5,900 万ユーロとなりました。

その結果、2024 年 9 ヶ月累計期間の基礎純利益グループ帰属分は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 8.0%増の 64 億 8,900 万ユーロとなりました。

地域銀行

総顧客獲得数は前年同期比 27 万 5,000 人増、顧客基盤は同 2 万 7,000 人増となりました。主に要求払預金を利用している顧客の割合とデジタル・ツールを利用する顧客の割合は引き続き増加しました。

ローン組成は、住宅ローンの 11%減と専門市場の落ち込みを反映し、2023 年度第 3 四半期比で 7%減少しました。住宅ローンの組成は年初から徐々に回復しています（2024 年度第 2 四半期比 20%増）。2024 年 7 月及び 8 月の住宅ローンの平均貸出金利は 3.47%¹⁰で、2024 年第 2 四半期を 16 ベーシス・ポイント下回りました。対照的に、世界全体の貸付残高率は緩やかに改善しました（2023 年第 3 四半期比 27 ベーシス・ポイント増）。2024 年 9 月末の貸付残高は 6,460 億ユーロで、すべての市場で前年同期比横ばいとなりましたが、前四半期比では 0.5%増とわずかに増加しました。

2024 年 9 月末時点の顧客資産は前年同期比 3.6%増の 9,030 億ユーロとなりました。この伸びの原動力は、6,010 億ユーロのオン・バランスシートの預金（9 月末時点で前年同期比 2.5%増）と、プラスの市場効果やユニットリンク型債券への好調な資金流入（前年比累計 80 億ユーロ）の恩恵を受けて 3,020 億ユーロとなったオフ・バランスシートの預金（前年同期比 5.9%増）でした。当四半期のオン・バランスシートの預金構成はほぼ変わらず、要求払預金と定期預金は 2024 年 6 月末から 0.6%減と 1%増となりました。

2024 年 9 月末の損害保険のクロスセル・レート¹¹は 43.8%となり、引き続き上昇しました（2023 年 9 月末と比べて 0.7 パーセント・ポイント上昇）。支払手段では、カード枚数が前年同期比 1.7%増加し、プレミアムカードの割合が総数ベースで前年同期比 1.9 パーセント・ポイント増加しカード全体の 16.0%を占めました。

2024 年度第 3 四半期には、SAS Rue La Boétie の配当¹²を含む地域銀行の連結収益は前年同期比 2.1%減の 32 億 2,000 万ユーロで、2023 年度第 3 四半期の住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するベース効果（+1 億 1,800 万ユーロ¹³）が特に影響しました。住宅購入貯蓄項目を除いた収益は前年同期比 1.5%増となりました。純利鞘の低下（住宅購入貯蓄¹³のベース効果を除くと同 11.6%減）は、ポートフォリオ収益（同 41.8%増）と好調な生命保険や口座管理が原動力となった手数料収入（同 4.9%増）の増加により相殺されました。営業費用は人件費、物件費及び IT コストの増加により 3.5%増加しました。営業総利益は前年同期比 15.3%減少しました（住宅取得貯蓄¹³のベース効果を除くと 3.8%減）。リスク関連費用は法人セクターでの確認済みリスクの増加などにより、2023 年度第 3 四半期比 43.7%増の 3 億 6,900 万ユーロとなりました。残高に対するリスク関連費用は抑制され、22 ベーシス・ポイントとなりました。

SAS Rue La Boétie の配当¹²を含む地域銀行の連結純利益は、2023 年度第 3 四半期比で 38.0%減少し（ベース効果¹³を除くと 26.5%減）、3 億 5,100 万ユーロになりました。

2024 年度第 3 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は、2023 年度第 3 四半期比 36.9%減の 3 億 7,100 万ユーロでした。

2024 年 9 ヶ月累計期間には、SAS Rue La Boétie の配当を含む収益は、前年同期と比べて 2.2%増加しました。営業費用は 2023 年 9 ヶ月累計期間比で 1.7%増加し、その結果、2024 年 9 ヶ月累計期間の営業総利益は 3%増となりました。最後に、リスク関連費用が 29%増加したのに伴い、SAS Rue La Boétie の配当を含む地域銀行の純利益グループ帰属分は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 0.5%増加し（住宅購入貯蓄のベース効果を除くと 1.9%増）、30 億 5,100 万ユーロになりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間には、クレディ・アグリコル・グループの業績への地域銀行の寄与は、表示純利益グループ帰属分が 10 億 2,100 万ユーロ（前年同期比 28.1%減）となり、収益が 98 億 3,400 万ユーロ（2%減）、費用が 74 億 5,300 万ユーロ（3.3%増）、リスク関連費用が 10 億 5,600 万ユーロ（27%増）となりました。

¹⁰2024 年 7 月及び 8 月の月間組成ローンの平均金利

¹¹住宅保険、自動車保険、医療保険、弁護士保険、すべてのモバイルもしくはポータブル保険、または個人損害保険のクロスセルレート

¹²SAS Rue La Boétie の年間配当は第 2 四半期に支払われます。

¹³2023 年度第 3 四半期の住宅購入貯蓄のベース効果（住宅購入貯蓄引当金の戻入）により、営業収益は 1 億 1,800 万ユーロ増加し、純利益グループ帰属分は 8,800 万ユーロ増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.

業績

2024 年度第 3 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2024 年 11 月 5 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A. - 表示実績と基礎的実績 (2024 年度第 3 四半期と 2023 年度第 3 四半期)

€m	Q3-24 stated	Specific items	Q3-24 underlyi ng	Q3-23 stated	Specific items	Q3-23 underlyi ng	Δ Q3/Q3 stated	Δ Q3/Q3 underlying
Revenues	6,487	3	6,484	6,343	284	6,060	+2.3%	+7.0%
Operating expenses excl. SRF	(3,689)	(34)	(3,654)	(3,376)	0	(3,376)	+9.2%	+8.2%
SRF	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Gross operating income	2,799	(31)	2,830	2,967	284	2,684	(5.7%)	+5.5%
Cost of risk	(433)	0	(433)	(429)	0	(429)	+0.9%	+0.9%
Equity-accounted entities	42	-	42	23	(26)	50	+81.3%	(15.3%)
Net income on other assets	(4)	(3)	(1)	69	61	8	n.m.	n.m.
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	2,404	(34)	2,438	2,630	318	2,312	(8.6%)	+5.4%
Tax	(476)	8	(484)	(633)	(89)	(544)	(24.8%)	(11.0%)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	2	-	2	n.m.	n.m.
Net income	1,928	(26)	1,954	1,999	229	1,770	(3.5%)	+10.4%
Non controlling interests	(262)	6	(268)	(251)	(2)	(250)	+4.2%	+7.5%
Net income Group Share	1,666	(20)	1,686	1,748	227	1,520	(4.7%)	+10.9%
Earnings per share (€)	0.50	(0.01)	0.51	0.53	0.07	0.46	(5.5%)	+11.4%
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	56.9%		56.4%	53.2%		55.7%	+3.6 pp	+0.6 pp

2024 年度第 3 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の表示純利益グループ帰属分は 2023 年度第 3 四半期比 4.7%減の 16 億 6,600 万ユーロとなりました。これは、住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連する非経常的項目から恩恵を受ました（以下、参照）。2024 年度第 3 四半期のこの素晴らしい業績は、高収益と低水準に維持されたコスト比率によるものです。

当四半期の**特殊要因**は純利益グループ帰属分に 2,000 万ユーロのマイナスの累積影響を及ぼしました。これには、DVA（負債評価調整）、FVA の発行体スプレッド部分、純利益グループ帰属分における大口顧客部門の担保付き融資に係る 300 万ユーロの利益、純利益グループ帰属分における大口顧客部門のローンブックのヘッジに係る 100 万ユーロの損失など、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれました。これらの経常項目のほかに、今四半期に固有の多数の項目がありました。すなわち、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分における Degroof Petercam の統合費用による 600 万ユーロ減、大口顧客部門の純利益グループ帰属分における ISB の統合費用による 1,400 万ユーロ減、アセット・ギャザリング部門の純利益グループ帰属分における Degroof Petercam の買収費用による 200 万ユーロ減です。

2023 年度第 3 四半期の**特殊要因**は純利益グループ帰属分に 2 億 2,700 万ユーロのプラスの累積的影響を及ぼし、これには 2 億 800 万ユーロのプラスの影響を及ぼした経常的項目が含まれました（主に LCL の純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻し入れによる 3,700 万ユーロのプラス、コーポレートセンターの純利益グループ帰属分の住宅購入貯蓄引当金の戻し入れによる 1 億 7,100 万ユーロのプラス）。非経常的項目は、SFS 部門のモビリティ事業の継続的な再編に関するもので、プラス 1,900 万ユーロの影響を及ぼしました。

住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するプラスのベース効果を除けば、当四半期の**純利益グループ帰属分**は前年同期比 8.2%増となりました。

特殊要因を除くと、2024 年第 3 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**¹⁴は 16 億 8,600 万ユーロとなりました（2023 年第 3 四半期と比べ 10.9%増）。

2024 年度第 3 四半期の**基礎収益**は 64 億 8,400 万ユーロと高水準になりました。2023 年度第 3 四半期と比べて、7.0%増と急増しました。この成長を牽引したのは、好調な事業モメンタムと Degroof Petercam の統合¹⁵により 12.9%増の成長となったアセット・ギャザリング部門、法人営業及び投資銀行業務が第 3 四半期も引き続き増収となったことに加え、CACEIS の純利鞘及び手数料収入が改善し、すべての事業が好業績を達成した大口顧客部門（8.7%増）、プラスの連結範囲変更の影響及び数量効果のほか、消費者金融及びモビリティ事業の利鞘の安定化の恩恵を受けた専門金融サービス部門（1.5%減）、純利鞘の改善と手数料収入の増加に後押しされたフランスのリテール・バンキング部門（3.7%増）、それにイタリアの純利鞘の低下の影響が大きかった国際リテール・バンキング部門（1.8%減）でした。コーポレート・センター部門は 4,300 万ユーロの増収となりました。

2024 年度第 3 四半期の**基礎営業費用**は事業発展のサポートを反映し、前年同期比 8.2%増の 36 億 5,400 万ユーロとなりました。前年同期比 2 億 7,800 万ユーロの費用増は 1 億 1,200 万ユーロの連結範囲変更の影響¹⁶、2,900 万ユーロの統合費用¹⁷、3,000 万ユーロの税金関連のベース効果などによるものでした。経常費用は 1 億 4,100 万ユーロ（4.1%）増加しました（人件費 3,800 万ユーロ増、IT 投資 7,600 万ユーロ増、その他の費用 2,700 万ユーロ増）。

その結果、2024 年度第 3 四半期の**基礎コスト比率**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 0.6 パーセント・ポイント上昇し、56.4%となりました。

2024 年度第 3 四半期の**基礎営業総利益**は 28 億 3,000 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期比で 5.5%増加しました。住宅購入貯蓄引当金の戻入のみを修正再表示した場合は 4.2%増でした。

2024 年 9 月 30 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 26%）と法人向け（クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 43%）に重点が置かれています。不良債権比率は前四半期比ほぼ横ばいで、2.5%と低水準で推移しました。不良債権引当率¹⁸は前四半期比で 0.1 パーセント・ポイント上昇し、71.4%と高い水準になりました。クレディ・アグリコル S.A.の**貸倒引当金**は 96 億ユーロで、2024 年 6 月末から 1 億ユーロ減少しました。これらの貸倒引当金のうち、34%は正常債権に対するものでした（割合は過去四半期並み）。

基礎リスク関連費用は 2023 年度第 3 四半期比 0.9%増の 4 億 3,300 万ユーロの純増となりました。これには、正常債権（レベル 1 及び 2）に対する 3,800 万ユーロの引当（2023 年度第 3 四半期は 5,900 万ユーロの戻入）と確認済みリスク（ステージ 3）に対する 3 億 8,800 万ユーロの引当（2023 年度第 3 四半期は 4 億 8,700 万ユーロの引当）が含まれます。また、その他の項目の引当（法律上の引当）が 700 万ユーロと少額ありました。事業ライン別では、当四半期の純増は専門金融サービス部門が 52%（2023 年 9 月末から横ばい）、LCL 部門が 19%（2023 年 9 月末は 16%）、国際リテール・バンキング部門が 14%（2023 年 9 月末は 28%）、大口顧客部門が 4%（2023 年 9 月末は 3%）、コーポレート・センター部門が 8%（2023 年 9 月末はゼロ）を占めました。コーポレート・センター部門のリスク関連費用の増加は、Foncaris が負った資金調達リスクの増加などによるものでした。引当水準は、いくつかの加重経済シナリオを考慮し、センシティブなポートフォリオに一定率の調整を加えることによって決定されました。第 3 四半期の加重経済シナリオは前四半期から据え置かれ、楽観的なシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に+1.2%、2025 年に+1.5%）と楽観的でないシナリオ（フランスの GDP 成長率は 2024 年に-0.2%、2025 年は+0.5%）が含まれています。2024 年第 3 四半期には、残高に対するリスク関連費用がローリング 4 四半期ベース¹⁹で 32 ベーシス・ポイント、年換算の四

¹⁴ 特殊要因を除く、基礎的項目。

¹⁵ Degroof Petercam による連結範囲変更の収益への影響：2024 年第 3 四半期に+1 億 4,000 万ユーロ

¹⁶ 2024 年第 3 四半期の費用への連結範囲変更の影響：Degroof Petercam が 1 億 400 万ユーロ、それにその他の雑費

¹⁷ ISB（CACEIS）の統合関連費用：2024 年第 3 四半期に 2600 万ユーロ（2023 年第 3 四半期は 500 万ユーロ）、Degroof Petercam の統合関連費用：2024 年第 3 四半期に 800 万ユーロ

¹⁸ ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率。

¹⁹ ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。

半期ベース²⁰で 32 ベーシス・ポイントとなりました（いずれも 2023 年第 3 四半期から 1 ベーシス・ポイント改善）。

2024 年度第 3 四半期の持分法適用会社の基礎寄与は 4,200 万ユーロで、2023 年度第 3 四半期比で 15.3%減となりました。これは、資産運用での持分法適用会社の高成長や消費者金融及びモビリティ事業の低迷などによるものでした。

非継続事業と非支配持分控除前の税引前基礎利益²¹は 5.4%増加して 24 億 3,800 万ユーロとなりました。基礎的実効税率は 20.2%で、2023 年度第 3 四半期比で 3.8 パーセント・ポイント低下しました。基礎的税金費用は 11%減の 4 億 8,400 万ユーロとなりました。これは保険事業における軽減税対象の株式持分の売却の影響と時価による有価証券の再評価の影響によるものですが、ウクライナでの税率上昇により一部相殺されました。非支配持分控除前の基礎純利益は 10.4%増加して 19 億 5,400 万ユーロとなりました。非支配持分は 2024 年第 3 四半期には 7.5%増加して 2 億 6,800 万ユーロとなりました。

2024 年第 3 四半期の 1 株当たり基礎的利益は、2023 年第 3 四半期と比べて 11.4%増加し、0.51 ユーロになりました。

クレディ・アグリコル S.A. - 表示実績と基礎的実績（2024 年 9 ヶ月累計期間と 2023 年 9 ヶ月累計期間）								
€m	9M-24 stated	Specifi c items	9M-24 underlyin g	9M-23 stated	Specifi c items	9M-23 underlyin g	Δ 9M/9M stated	Δ 9M/9M underlyin g
Revenues	20,089	53	20,036	19,140	598	18,542	+5.0%	+8.1%
Operating expenses excl.SRF	(10,978)	(84)	(10,894)	(9,922)	(18)	(9,904)	+10.6%	+10.0%
SRF	-	-	-	(509)	-	(509)	(100.0%)	(100.0%)
Gross operating income	9,111	(30)	9,141	8,709	580	8,129	+4.6%	+12.5%
Cost of risk	(1,256)	(20)	(1,236)	(1,338)	(84)	(1,253)	(6.1%)	(1.3%)
Equity-accounted entities	132	(0)	132	136	(39)	175	(3.4%)	(24.7%)
Net income on other assets	5	(23)	28	102	89	13	(95.3%)	x 2.1
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	7,991	(73)	8,064	7,609	545	7,064	+5.0%	+14.2%
Tax	(1,790)	12	(1,803)	(1,832)	(149)	(1,682)	(2.3%)	+7.1%
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	7	-	7	n.m.	n.m.
Net income	6,201	(61)	6,262	5,785	396	5,389	+7.2%	+16.2%
Non controlling interests	(803)	16	(820)	(771)	(2)	(769)	+4.2%	+6.6%
Net income Group Share	5,397	(45)	5,442	5,014	394	4,620	+7.6%	+17.8%
Earnings per share (€)	1.59	(0.01)	1.60	1.53	0.13	1.40	+3.8%	+14.5%
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	54.6%		54.4%	51.8%		53.4%	+2.8 pp	+1.0 pp

2024 年 9 ヶ月累計期間の表示純利益グループ帰属分は、前年同期の 50 億 1,400 万ユーロから 7.6%増加して 53 億 9,700 万ユーロとなりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の特殊要因は表示純利益グループ帰属分に 4,500 万ユーロのマイナスの影響を与え、その内訳は経常的な会計項目が 3,900 万ユーロ、非経常的項目が 8,400 万ユーロでした。当該経常項目は主に、住宅購入貯蓄引当金の戻入と引当（差引 100 万ユーロの利益）と大口顧客部門の変動の大きい会計項目（DVA に係る 3,300 万ユーロの利益とローンブックのヘッジに係る 500 万ユーロの利益）です。非経常項目は、アセット・ギャザリング部門の Degroof Petercam の統合及び買収費用（2,700 万ユーロの利益減）、大口顧客部門の ISB の統合費用（3,700 万ユーロの利益減）及び買収費用（1,700 万ユーロの利益減）、国際リテール・バンキング部門のウクライナにおけるリスク引当金の追加計上（2,000 万ユーロの利益減）に関するものです。

²⁰ 年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。

²¹ 特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。

特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて **17.8%増**の 54 億 4,200 万ユーロでした。

基礎収益は、すべての事業ラインが原動力となり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて **8.1%増加**しました。基礎**営業費用**は、グループの事業の発展及び連結範囲変更の影響全体を反映し、2023 年から 10%増加しましたが、SRF²²積立期間の終了により一部相殺されました。2024 年 9 ヶ月累計期間には、SRF を除いた基礎コスト比率は、前年同期と比べて 1 パーセント・ポイント上昇し、54.4%となりました。**基礎営業総利益**は 91 億 4,100 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 12.5%増加しました。2024 年 9 ヶ月累計期間に**基礎リスク関連費用**は 1.3%減少し、12 億 3,600 万ユーロとなりました（2023 年 9 ヶ月累計期間は 12 億 5,300 万ユーロ）。最後に、持分法適用会社の基礎寄与は 1 億 3,200 万ユーロで、2023 年 9 ヶ月累計期間比で 24.7%減少しました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の **1 株当たり基礎的利益**は **1.60 ユーロ**で、2023 年 9 ヶ月累計期間比で **14.5%増加**しました。

基礎 **RoTE**²³は、基礎純利益グループ帰属分の年換算額²⁴及び線形化で年換算された IFRIC の下での費用に基づいて算出されており、年換算後の追加 Tier 1 債券のクーポンを控除して算出され（無形資産を除いたグループ帰属株主資本利益率）、また償還 AT1 債への為替の影響を控除して算出され、資本で認識されている特定の変動の大きい項目について修正再表示され（含み損益を含む）、2024 年 9 ヶ月累計期間には **14.5%**となり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1 パーセント・ポイント上昇しました。

²²2023 年 9 ヶ月累計期間の SRF 費用は 5 億 900 万ユーロ

²³RoTE（有形株主資本利益率）の計算の詳細については、添付資料を参照してください。

²⁴年換算後の基礎純利益グループ帰属分は、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正することによって、基礎純利益グループ帰属分の年換算（第 1 四半期 × 4、上半期 × 2、9 ヶ月累計期間 × 4/3）したものに相当します。

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の活動及び業績の分析

アセット・ギャザリング部門の活動

2024 年第 3 四半期のアセット・ギャザリング部門の運用資産は、プラスの市場効果に加えて、アセット・マネジメント、保険、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインからの好調な純資金流入などにより、前四半期と比べて 460 億ユーロ（1.7%）増加し、合計 2 兆 8,090 億ユーロとなりました。前年同期比では、運用資産は 13.1%増加しました。

保険事業（クレディ・アグリコル・アシュアランス）は非常に好調で、総保険料収入は、貯蓄・退職保険、損害保険、死亡・高度障害・債権者・団体保険の 3 分野すべてで増加し、2023 年度第 3 四半期と比べて 38.9%増加して 97 億ユーロとなり、第 3 四半期として過去最高となりました。保険料収入は全体で 328 億ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 18.2%の増加となりました。

貯蓄・退職保険部門では、第 3 四半期の保険料収入は 2023 年度第 3 四半期比で 56.4%増の 72 億ユーロとなりました。事業の原動力となったのは、第 1 四半期に開始され、ユーロの総資金流入を押し上げたフランスでのユーロ支払いボーナス・キャンペーンに加えて、確認済みの国際事業の回復です。総流入額に占めるユニット・リンク型商品の比率は 32.8%で、2023 年第 3 四半期に比べて 7.5 パーセント・ポイント低下しました。比率の低下は、ユーロの総流入額の回復とユニット・リンク型商品の市場環境の悪化、特にユニット・リンク型債券の魅力の低下に関連しています。第 3 四半期の純資金流入額は合計 16 億ユーロ増で、前四半期並みとなりました。この金額は、ユニットリンク型商品の純資金流入（9 億ユーロ増）とユーロ・ファンドの純資金流入（8 億ユーロ増）によるものです。貯蓄・退職保険部門の 9 月末時点の保険料収入は合計 239 億ユーロで、2023 年 9 月末比 23.1%の増加となりました。

運用資産（貯蓄・退職金・葬儀保険）は 3,432 億ユーロとなり、引き続き増加し、過去最高水準となりました。前年比では 190 億ユーロ増（5.8%増）、年初来で 129 億ユーロ増（3.9%増）となりました。運用資産の増加を後押ししたのは、プラスの市場効果と純資金流入の増加でした。運用資産に占めるユニット・リンク型商品の割合は 29.9%に達し、前年比 2.3 パーセント・ポイント上昇し、2023 年 12 月末比 1.0 パーセント・ポイント上昇しました。

損害保険事業では、2024 年第 3 四半期の保険料収入は 12 億ユーロと、2023 年第 3 四半期と比べて 9.2%増加²⁵しました。この伸びは数量と価格の効果によるものでした。実際、2024 年 9 月末時点で、ポートフォリオの件数はほぼ 1,660 万件となり²⁶、前年比で 5.1%増となりました。また、平均保険料は、商品構成の変化に加え、料率改定の効果もあって上昇しました。最後に、2024 年 9 月末現在のコンバインドレシオは 95.5%²⁷で、割引の悪影響により前年同期比 0.3 パーセント・ポイント悪化しました。2024 年 9 月末時点の保険料収入は合計で 49 億ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 7.8%増加しました。

死亡・高度障害、債権者及び団体保険では、2024 年度第 3 四半期の保険料収入は 13 億ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期から 2.2%増加しました。債権者保険の保険料収入は、消費者金融の好転と不動産の好業績により、2023 年度第 3 四半期比で 1.6%増加しました。死亡・障害保険の保険料収入は 2023 年度第 3 四半期比で 3.5%増加しました（主に団体保険が牽引し、9.5%の増加）。団体保険については、2024 年 10 月に Industries Electriques et Gazières との契約が締結されました。当該契約は 2025 年下半期に発効します。9 月末時点の個人保障の保険料収入は合計で 40 億ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 5.7%増加しました。

資産運用（アムンディ）では、アムンディの運用資産が 2024 年 9 月 30 日現在、前年同期比で 11.1%増、四

²⁵ 損害保険料収入には、CATU（ポーランドの損害保険事業体）が初めて連結されることに伴う連結範囲変更の影響がありました。これには、損害保険料収入の伸びへの 0.5%のプラスの影響（2023 年第 3 四半期から 2024 年第 3 四半期の CATU を除いた保険料収入の 8.7%増）、ポートフォリオの伸びへの 2.0%のプラスの影響、すなわち 31 万 4,000 件の契約の影響（2023 年 9 月から 2024 年 9 月までの CATU を除いた保険料収入は 3.1%増）が含まれます。

²⁶ 連結範囲：フランス内外の損害保険

²⁷ 割引を含め、割戻を除いた再保険料控除後のフランスの P&C（Pacifica）のコンバインドレシオは、総経過保険料に対する（保険金+営業費用+手数料収入）。2024 年 9 か月累計期間に関して算定しています。2024 年 9 ヶ月累計期間の割引の効果を除いた純コンバインドレシオは 97.7%（前年比 0.2 パーセント・ポイント減）となりました。

半期比で 1.6%増の 2 兆 1,920 億ユーロと過去最高になりました。当四半期に運用資産が 354 億ユーロ増加したのは、325 億ユーロのプラスの市場及び為替効果、29 億ユーロの純資金流入によるものでした。

今四半期の純資金流入額には、収益がさほど生じなかった欧州の保険会社との 116 億ユーロのマンデートの終了が含まれます。この流出を調整した当四半期の純資金流入額は 144 億ユーロで、これにはアクティブ運用と ETF が原動力となった**中長期資産**²⁸の 91 億ユーロが含まれます。仕組商品と実物及びオルタナティブ資産も資金流入が増加しましたが、**トレジャリー商品**²⁸は横ばいとなりました。最後に、**ジョイント・ベンチャー**は引き続き商業向けの勢いが堅調で、純資金流入は 53 億ユーロとなり、インドと韓国のプラスの寄与を反映しました。

顧客セグメント別では、**リテール**の資金流入（2024 年度第 3 四半期は 63 億ユーロ）は、サードパーティ・ディストリビューターの好調な勢い（68 億ユーロ）に牽引され、全地域で生じ、また資産クラス別の資金流入の分散も良好でした。上記の保険マンデートの損失を除き、**機関投資家セグメント**は、すべてのセグメント、特に機関投資家及びソブリンで、またクレディ・アグリコル・グループ及びソシエテ・ジェネラル・グループの保険会社のマンデートで、マルチ資産への資金流入が非常に好調でした。これは、今四半期のフランスのユーロ建て生命保険市場の回復の継続によるものでした。一方、トレジャリー商品については機関投資家セグメントで急激な季節的な資金流出がありました。

ウェルス・マネジメントでは、総運用資産（CA インドスエズ・ウェルス・マネジメントと LCL プライベート・バンキング）は 2024 年 9 月末現在で 2,740 億ユーロとなり、2024 年 6 月末から 2.7%増加し、2023 年 9 月末から 46.9%増加しました。

インドスエズ・ウェルス・マネジメントの 2024 年 9 月末現在の運用資産は、市場効果（25 億ユーロ増）や純資金流入（18 億ユーロ増）に伴う好調な事業により、とりわけスイスやアジアが原動力となり、2024 年 6 月末から 2.1%増（42 億ユーロ増）の 2,092 億ユーロ²⁹となりました。当四半期にはまた、Degroof Petercam のファンドがインドスエズの顧客への販売を開始しました。運用資産は 2023 年 9 月末比で 843 億ユーロ増（67.5%増）となりました。これには、690 億ユーロの連結範囲変更の影響（2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合）、プラスの市場効果、良好な純資金流入額が考慮されています。

LCL のプライベート・バンキング部門の 2024 年 9 月末現在の総運用資産は、プラスの市場効果と純資金流入の増加により、2024 年 6 月末から 10 億ユーロ（1.5%）増の 648 億ユーロとなりました。運用資産は 2023 年 9 月末比では 32 億ユーロ増（5.3%増）となりました。これは主にプラスの市場効果によるもので、また純資金流入の増加も寄与しました。

アセット・ギャザリング部門の業績

2024 年度第 3 四半期の AG の**収益**は 18 億 7,000 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 12.9%増加しました。**費用**は 20.9%増加し、8 億 6,800 万ユーロとなりました。その結果、**コスト比率**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 3.0 パーセント・ポイント上昇し、46.4%となりました。営業総利益は 10 億 200 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 6.9%増加しました。税金は 2023 年 9 月末時点の 2 億 2,100 万ユーロに対して、1 億 5,700 万ユーロ（29.1%減）となりました。AG の**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 17.1%増の 7 億 2,800 万ユーロでした。

AG の 2024 年 9 月末時点の**収益**は 56 億 300 万ユーロとなり、2023 年 9 月末時点と比べて 9.1%増加しました。この増加は、保険、資産運用、ウェルス・マネジメントの 3 つの事業ラインすべてが非常に高水準の収益を上げたことによるものです。SRF を除いた費用は、13.4%増加しました。その結果、SRF を除いたコスト比率は、2023 年 9 月末と比べて 1.6 パーセント・ポイント上昇し、43.5%となりました。営業総利益は 31 億 6,800 万ユーロとなり、2023 年 9 月末と比べて 6.3%増加しました。税金は 2023 年 9 月末時点の 6 億 9,900 万ユーロに対して、6 億 5,900 万ユーロ（5.7%減）となりました。AG の**純利益グループ帰属分**は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.3%増の 21 億 8,000 万ユーロでした。純利益グループ帰属分は 2023 年 9 ヶ月累計期間から 2024 年 9 ヶ月累計期間に、資産運用事業（10.2%増）と保険事業（11.3%増）では増加しましたが、ウェルス・マネジメント（18.9%減）では減少しました。

²⁸ ジョイント・ベンチャーを除く

²⁹ 機関投資家顧客のカストディー資産を除く

2024 年 9 月末現在、アセット・ギャザリング部門は、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 37%、コーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 27%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日現在で同部門に配分された自己資本は 126 億ユーロで、この内訳は、保険が 104 億ユーロ、資産運用が 13 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 8 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 587 億ユーロで、この内訳は、保険が 357 億ユーロ、資産運用が 141 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 89 億ユーロでした。

2024 年 9 ヶ月累計期間の**基礎 RoNE**（調整株主資本利益率）は 27.1%でした。

保険事業の業績

2024 年度第 3 四半期の保険事業の**収益**は 6 億 3,500 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期に比べて 1.2%減少しました。保険事業の収益の内訳は、貯蓄・退職金保険が 4 億 1,800 万ユーロ³⁰、個人保障が 1 億 1,700 万ユーロ³¹、損害保険が 4,000 万ユーロ³²でした。事業活動が拡大しているなか減収となったのはとりわけ、2023 年度第 3 四半期に低水準であった損害保険金請求が 2024 年度 3 四半期に増加したこと（特に農作物保険）、また AT1 債（費用は少数株主持分として計上）のティア 2 債（費用は収益から差引）への置き換えに関する悪影響によるものでした。

契約上のサービス・マージン（CSM）は 249 億ユーロとなり、2023 年 12 月 31 日以降 4.5%増加しました。2024 年 9 ヶ月累計期間には、株式再評価の影響がプラスとなり、新規事業は CSM の配分よりも影響が大きくなりました。

当四半期の帰属不能の費用は 8,500 万ユーロで、2023 年度第 3 四半期から 5.1%増加しました。**営業総利益**は 5,500 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 2.1%減少しました。税金は 2023 年度第 3 四半期の 1 億 3,100 万ユーロに対して、5,100 万ユーロとなりました。この減少は、当四半期中に実施された、軽減税対象の株式持分の売却の影響と時価による有価証券の再評価の影響を含む税率の再試算によるものです。**純利益グループ帰属分**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 16.2%増の 4 億 7,800 万ユーロでした。

2024 年 9 ヶ月累計期間の保険事業からの収益は 21 億 3,000 万ユーロとなり、2023 年 9 月末時点の合計と比べて 5.4%増加しました。非帰属費用は 2 億 6,400 万ユーロ（11.4%増）となりました。コスト比率は 12.4%となり、中期経営計画で設定されている目標上限の 15%を下回りました。営業総利益は 18 億 6,600 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 4.6%増加しました。税金は 3 億 5,400 万ユーロとなり、2023 年 9 月時点の 4 億 1,100 万ユーロを下回りました。純利益グループ帰属分は、2023 年 9 ヶ月累計期間比で 11.3%増の 14 億 6,600 万ユーロとなりました。

保険は、2024 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 25%に寄与し、また基礎収益の 10%に寄与しました。

³⁰ 葬儀保証を含む契約上のサービスマージン（CSM）とリスク調整（RA）の配分額

³¹ CSM と RA の配分額

³² 再保険費用控除後（業績を除く）

資産運用の業績

2024 年度第 3 四半期の収益は 8 億 3,800 万ユーロと 2 桁増（2023 年度第 3 四半期比 10.3%増）になりました。運用報酬と手数料収入は 2023 年度第 3 四半期比で 9.2%増加しましたが、これは、好調な事業活動とジョイント・ベンチャーを除く平均運用資産の増加（前年同期比 8.6%増、前四半期比 1.2%増）を反映しています。成功報酬は 2023 年度第 3 四半期と比較して 1,000 万ユーロ増加しましたが、第 3 四半期は第 2 四半期や第 4 四半期と比べて結晶化の日数が少なくなりました。アムンディ・テクノロジーの収益は 2023 年度第 3 四半期と比べて 41.8%増加しました。金融収入は 2023 年度第 3 四半期に比べて 10.6%減少しました。営業費用は、Alpha Associates の連結、投資の加速、増収の変動報酬への影響などにより 7.5%増加し、4 億 6,600 万ユーロとなりました。乖離効果は当四半期、プラスとなりました。その結果、コスト比率は 55.6%となり、前年同期比で改善しました（1.5 パーセント・ポイント減）。営業総利益は 2023 年度第 3 四半期と比べて 14.1%増加しました。アムンディのアジアのジョイント・ベンチャーからの貢献で構成される持分法適用会社の寄与は、2023 年度第 3 四半期から 36.4%増加して 3,300 万ユーロとなりました。これはインドの SBI MF の寄与の大幅な拡大などが牽引しました。税金費用は 14.9%増の 9,200 万ユーロでした。非支配持分控除前の純利益は 3 億 1,200 万ユーロとなり、2023 年 9 月末時点の合計と比べて 16.4%増加しました。純利益グループ帰属分は、2023 年度第 3 四半期と比べて 16.8%増の 2 億 800 万ユーロでした。

資産運用事業の収益は 2024 年 9 ヶ月累計期間、運用報酬及び手数料収入の持続的な伸び、アムンディ・テクノロジーの収益（5,400 万ユーロ、28.2%増）及び純金融収入の急増を反映し、7.2%増となりました。成功報酬はわずかながら減少しました（2.0%減）。SRF を除く営業費用は、6.3%増加しました。SRF を除いたコスト比率は 55.3%で、2023 年 9 月末時点の合計と比較して安定しています。その結果、営業総利益は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 8.8%増加しました。持分法適用会社の当期純利益は 28.4%増加しました。全体として、上半期の純利益グループ帰属分は、10.2%増加して 6 億 2,300 万ユーロとなりました。

資産運用は、2024 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の主力事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 10%に寄与し、基礎収益の 12%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日時点で、資産運用事業部門に配分された資本は 13 億ユーロ、リスク・ウェイト資産は合計 141 億ユーロになりました。

ウェルス・マネジメントの業績³³

ウェルス・マネジメントの 2024 年度第 3 四半期の収益は 3 億 9,700 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期に比べて 56.6%増加しました。収益は 2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響の恩恵を受けました。この影響を除けば、収益を支えたのは運用手数料及び手数料収入の良好な伸びで、金利収入の減少を相殺しました。費用は合計 3 億 1,700 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期比で 55.5%増加しました。これは、2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響³⁴と 2024 年度第 3 四半期の統合費用 800 万ユーロによるものです。これらの影響の修正再表示後の費用の伸びは横ばい（2023 年度第 3 四半期比で 0.2%増）となりました。その結果、2024 年度第 3 四半期のコスト比率は、2023 年度第 3 四半期と比べて 0.6 パーセント・ポイント低下し、79.9%となりました。営業総利益は 8,000 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 61.4%増加しました。2024 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、訴訟及び各種裁判の引当金の認識を含め、1,100 万ユーロとなりました。2024 年第 3 四半期のその他資産の純利益はマイナス 300 万ユーロで、これは Degroof Petercam の買収費用に相当し、個別項目として再表示されています。純利益グループ帰属分は、2023 年第 3 四半期比で 30.6%増の 4,200 万ユーロとなりました。

³³ インドスエズ・ウェルス・マネジメントの連結範囲

³⁴ Degroof Petercam の当四半期のデータはウェルス・マネジメントの業績に含まれています。収益は 1 億 4,000 万ユーロ、費用は 1 億 400 万ユーロ（Degroof Petercam が一部負担した統合費用を除く）

2024 年 9 ヶ月累計期間には、ウェルス・マネジメントの収益は 2023 年 9 月末比 24.7%増加し、特に 2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合が寄与し、9 億 6,700 万ユーロに達しました。SRF を除いた費用は、2024 年 6 月の Degroof Petercam の統合の影響と 1,400 万ユーロの統合費用により、29.3%増加しました。これらの影響を修正再表示したことで経費の伸びは抑制されましたが、2023 年の不利なベース効果などにより、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 3.6%増加しました。その結果、営業総利益は 10.0%増加し、1 億 8,100 万ユーロとなりました。2024 年 9 月末時点のリスク関連費用は 1,200 万ユーロでした（2023 年 9 月末時点は 100 万ユーロの改善）。2024 年 9 月末のその他資産の純利益はマイナス 2,300 万ユーロで、これは Degroof Petercam の買収費用に相当し、個別項目として再表示されています。2024 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は 9,100 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間比で 18.9%減少しましたが、統合及び買収費用の修正再表示後では 4.5%増となりました。

ウェルス・マネジメントは、2024 年 9 月末におけるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門の基礎純利益グループ帰属分（コーポレート・センター部門を除く）の 2%に寄与し、基礎収益の 5%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日現在、ウェルス・マネジメントに配分された資本は 8 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 89 億ユーロでした。

大口顧客部門の活動

法人営業及び投資銀行部門（CIB）は、2024 年度第 3 四半期も大幅な好業績となりました（第 3 四半期及び年初来では過去最高の収益及び実績）。**資産運用サービス事業**も当四半期、事業モメンタムが好調でした。

CIB の第 3 四半期の基礎収益は、2 つの事業ラインの成長が牽引し、2023 年度第 3 四半期比 8.0%増の 15 億 2,800 万ユーロと大幅に増加しました。ファイナンス事業による収益は 2023 年度第 3 四半期比で 7.2%増の 8 億 900 万ユーロとなりました。これは、テレコム・セクターをはじめとしたコーポレート事業の発展を原動力とした商業銀行事業の好業績（2023 年度第 3 四半期比で 9.5%増）、それにアセット・ファイナンスやプロジェクト・ファイナンスの好調な収益などによるものです。資本市場及び投資銀行業務も、資本市場業務の好業績の継続（FICC（債券、為替、コモディティ）に関しては 2023 年度第 3 四半期比 6.2%増）と投資銀行業務の好業績（2023 年度第 3 四半期比 22.8%増）により、2023 年度第 3 四半期比 9.0%増の 7 億 1,900 万ユーロの増収となり、2024 年度上半期末のトレンドを裏付けました。

よって、ファイナンス事業はシンジケート・ローンにおける主導的地位を確認しました（フランスで第 2 位³⁵、EMEA³⁵で第 2 位）。クレディ・アグリコル CIB は、債券発行における高い地位を再確認し（世界全体のすべてのユーロ建債で第 3 位³⁵）、ユーロ建てグリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナブルボンドで第 2 位³⁶となりました。2024 年度第 3 四半期の規制上の VaR の平均は 1,010 万ユーロで、1,010 万ユーロであった 2024 年第 2 四半期から横ばいとなりました。慎重なリスク管理を反映した水準で推移しました。

また 2024 年度第 3 四半期には、ISB（旧欧州 RBC インベスター・サービスズ）の顧客ポートフォリオの CACEIS のプラットフォームへの移行が引き続き行われました。これに先立って、2024 年 5 月 31 日に ISB と CACEIS の顧客が実質的に統合されています。顧客の移行は 2024 年末まで続くと見込まれます。留意事項として、ISB の統合費用は 2024 年、2024 年度第 3 四半期の 2,590 万ユーロ、2024 年 9 ヶ月累計期間に計上される 7,000 万ユーロを含め、約 8,000 万ユーロから 1 億ユーロが計上されます。

2024 年度第 3 四半期は、堅調な顧客事業と市場効果に支えられ、資産残高は前年同期比で増加しました。**カストディ資産**は 2024 年 9 月末時点で、2024 年 6 月末比 1.9%増、2023 年 9 月末比 12.1%増の 5 兆 610 億ユーロとなりました。**運用資産**は前四半期比 1.2%減（一部の ISB 顧客が退出を計画）、前年同期比 4.2%増となり、2024 年 9 月末で 3 兆 3,860 億ユーロとなりました。

³⁵Refinitiv LSEG

³⁶Bloomberg（ユーロ建て）

大口顧客部門の業績

2024 年度第 3 四半期には、法人営業及び投資銀行部門ならびに資産運用サービス部門の好調な業績により、大口顧客部門の表示収益は 20 億 5,400 万ユーロと再び記録的な水準に達し、2023 年度第 3 四半期比で 8.8% 増加しました。大口顧客部門の当四半期の特殊要因は、法人営業及び投資銀行部門に 280 万ユーロの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）が 360 万ユーロ、ローンブックのヘッジが 80 万ユーロでした。営業費用は 2023 年度第 3 四半期比で増加（8.8%増）しましたが、これは IT 投資と事業活動の発展のほか、特殊要因として修正再表示された 2,590 万ユーロの IBS 統合費用の計上によるものでした。その結果、同部門の営業総利益は 8 億 1,400 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 8.8%増加しました。2024 年度第 3 四半期の同部門のリスク関連費用は 1,900 万ユーロの純増となりました。これに対して 2023 年度第 3 四半期は 1,300 万ユーロ増でした。税引前の表示利益は 8 億ユーロとなり、前四半期比で増加（8.2%増）しました。税金費用は 2 億 3,400 万ユーロでした。最後に、2024 年度第 3 四半期の表示純利益グループ帰属分は 5 億 2,000 万ユーロになりました。これに対し、2023 年度第 3 四半期の表示利益は 4 億 8,800 万ユーロでした。2024 年度第 3 四半期の基礎純利益グループ帰属分は 5 億 3,200 万ユーロとなりました（2023 年度第 3 四半期は 4 億 8,800 万ユーロ）。

2024 年 9 ヶ月累計期間の大口顧客部門の表示収益は 2023 年 9 ヶ月累計期間比 12.0%増の 65 億 4,300 万ユーロとなり、過去最高となりました。SRF を除く営業費用は、主に従業員費用と IT 投資の増加に伴い、ISB の統合費用 7,000 万ユーロを含め、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 13.4%増の 32 億 9,800 万ユーロとなりました。2024 年 9 ヶ月累計期間の営業総利益は 28 億 200 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 25.4%の増益となりました。2024 年 9 ヶ月累計期間のリスク関連費用は 2,500 万ユーロの純増となりました。これに対して、前年同期は 8,100 万ユーロ増でした。その結果、当部門の表示純利益グループ帰属分への寄与は 19 億 3,600 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べ 30.3%増と大幅増加しました。2024 年 9 ヶ月累計期間の基礎純利益グループ帰属分は 19 億 3,500 万ユーロでした（2023 年 9 ヶ月累計期間は 15 億 2,000 万ユーロ）。

同部門は、2024 年 9 月末時点におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 33%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた基礎収益の 31%に寄与しています。

2024 年 9 月 30 日現在、当部門に配分された資本は 133 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 1,405 億ユーロでした。

2024 年 9 月末時点で、基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 19.0%になりました。

法人営業及び投資銀行部門の業績

2024 年度第 3 四半期の法人営業及び投資銀行部門の表示収益は、2023 年度第 3 四半期比 8.2%増の 15 億 3,100 万ユーロとなり、過去最高を記録しました。法人営業及び投資銀行部門の当四半期の特殊要因は、280 万ユーロのプラスの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVA の発行体スプレッド部分と担保付き融資）に係る利益が 360 万ユーロ、ローンブックのヘッジに係る損失が 80 万ユーロでした。営業費用は前年同期比 7.2%増の 8 億 6,400 万ユーロとなりましたが、これは主に IT 投資と事業活動の発展によるものでした。営業総利益は 2023 年度第 3 四半期比で 9.5%増と大幅に増加し、6 億 6,700 万ユーロの高水準になりました。コスト比率は 56.4%となり、前四半期比 0.5 パーセント・ポイント減とわずかながら変動しました。リスク関連費用は 1,400 万ユーロの純繰入にとどまり、2023 年度第 3 四半期比で横ばいとなりました。最後に、2024 年第 3 四半期の税引前利益は 6 億 5,300 万ユーロとなりました（2023 年第 3 四半期は 5 億 9,600 万ユーロ）。税金費用は 1 億 9,500 万ユーロでした。これにより、2024 年度第 3 四半期の表示純利益グループ帰属分は 10.3%増と大幅に増加し、4 億 4,600 万ユーロとなりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の表示収益は高水準となった 2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 7.6%増加し、49 億 9,500 万ユーロの過去最高となりました。同期間の特殊要因は、5,220 万ユーロのプラスの影響を及ぼしました。内訳は、DVA（FVAの発行体スプレッド部分と担保付き融資）に係る利益が 4,580 万ユーロ、ローンブックのヘッジに係る利益が 630 万ユーロでした。**SRF を除く営業費用**は 5.1%増となりました。これは主に変動報酬と、事業ラインの発展を支援するための IT 及び従業員投資によるものでした。よって、**営業総利益**は 23 億 7,000 万ユーロと大幅に増加しました（2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 26.5%増）。2024 年 9 ヶ月累計期間の**リスク関連費用**は、700 万ユーロの純繰入となりました。これに対して、2023 年 9 ヶ月累計期間は 8,000 万ユーロの純繰入でした。税金費用は 27.1%増の 6 億 900 万ユーロでした。最後に、2024 年 9 ヶ月累計期間の**純利益グループ帰属分**は前年同期比で 33.6%増加して 17 億 1,500 万ユーロとなり、過去最高の水準となりました。2024 年 9 ヶ月累計期間の**基礎純利益グループ帰属分**は 16 億 7,700 万ユーロでした（2023 年 9 ヶ月累計期間は 13 億 1,800 万ユーロ）。

2024 年 9 月末時点の**リスク加重資産**は 2024 年 6 月末時点に比べ 27 億ユーロ減の 1,286 億ユーロとなり、事業成長しつつ依然として十分に抑制されています。

資産運用サービスの業績

資産運用サービスの 2024 年度第 3 四半期の**収益**は 5 億 2,300 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期に比べて 10.7%増加しました。この増収は、とりわけ資産の増加に伴う高水準の手数料収入によるもので、純利鞘の良好なトレンドも原動力となりました。**営業費用**は前年同期比 12.8%増の 3 億 7,600 万ユーロとなりました。これには、残存する ISB の事業体の連結に関連する連結範囲変更の影響 400 万ユーロと、特殊要因として修正再表示された ISB の統合費用 2,580 万ユーロが含まれます。これらの影響を除いた営業費用は 2023 年度第 3 四半期比 5.5%増となりました。その結果、2024 年度第 3 四半期の**営業総利益**は 5.7%増加し 1 億 4,700 万ユーロとなりました。よって、**コスト比率**は、1.3 パーセント・ポイント増加し、71.9%となりました。ISB の統合費用と残存する ISB の事業体の連結を除いたコスト比率は 66.2%で、2023 年度第 3 四半期に比べ 3.3 パーセント・ポイント改善しました。また、当四半期には持分法適用会社からの所得 600 万ユーロも計上しました。これにより、**純利益**は 1 億 900 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 10.8%減少しました。非支配持分 3,500 万ユーロの調整後では、同事業ラインの**表示純利益グループ帰属分**への寄与は 2024 年第 3 四半期に 7,400 万ユーロとなり、2023 年第 3 四半期と比べて 11.7%減少しました。ISB の統合費用を除いた**純利益グループ帰属分**は 2023 年第 3 四半期比で 4.8%増加しました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の**表示収益**は 2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 28.7%増加しました。ISB の統合、好調な商業的モメンタム、期間中の利鞘の上昇傾向が追い風となりました。**SRF を除く経費**は 39.2%増加しましたが、これには 2024 年上半期のマイナス 2 億 700 万ユーロの連結範囲変更の影響や 7,000 万ユーロの ISB の統合費用が含まれます。**営業総利益**は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 20.0%増加しました。**コスト比率**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 5.5 パーセント・ポイント上昇し、72.1%となりました。その結果、**純利益**は 10.1%増加しました。2024 年 9 ヶ月累計期間の**純利益グループ帰属分**に対する同部門全体の寄与は 2 億 2,100 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.3%増加しました。

専門金融サービス部門の活動

クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス&モビリティーズ（CAPFM）の商業組成は 2024 年度第 3 四半期に合計 116 億ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期並みとなりました。四半期の新規組成件数に占める自動車ローン³⁷の割合は当四半期、50.6%でした。組成の平均顧客向け金利は 2024 年度第 2 四半期から 24 ベーシス・ポイント低下しました。2024 年 9 月末時点の CAPFM の**運用資産**は 1,168 億ユーロで、2023 年 9 月末比 5.2%増となりました。全事業（自動車事業で 6.9%増³⁸、LCL 及び地域銀行で 5.6%増、その他の事業体で 3.3%増）が牽引しました。最後に、2024 年 9 月末時点の**連結残高**は合計 689 億ユーロで、2023 年第 3 四半期比で 4.7%増加しました。

³⁷CA オートバンク、自動車関連のジョイント・ベンチャー、その他の事業体の自動車事業

³⁸CA オートバンクと自動車関連のジョイント・ベンチャー

CAPFM は、GAC Leasing の持ち分 50% を買収する計画、中国メーカー GAC の製造した自動車のローンを CA オートバンクに委託するための GAC Motor International との汎欧州的な提携、FATEC の顧客にフリート管理サービスを提供するための FATEC との提携、フランスで電気充電ステーションの設置を拡大するための EDF との合意といった最近の動きを発表しました。

クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング (CAL&F) の商業組成は、2023 年度第 3 四半期比 13.6% 増となりました。全事業部門が牽引し、特に**不動産リース**と再生可能エネルギーへの融資が好調でした。**不動産リース**はフランス国内外で引き続き成長しました。2024 年 9 月末時点のリース残高は、フランス国内と国外で前年比 8.8% 増（フランス国内が 6.7% 増、国外 17.4% 増）の 201 億ユーロ（うちフランス国内が 159 億ユーロ、国外 42 億ユーロ）となりました。**ファクタリングの商業組成**は、2023 年度第 3 四半期比で 17% 減少しました。留意事項として、2023 年第 3 四半期のドイツの組成は過去最高となりました。2024 年 9 月末の**ファクタリング残高**は 2023 年 9 月末並みとなりました。

2024 年 10 月 31 日、クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリングはドイツの Merca Leasing を買収する契約を締結したことを発表しました。

専門金融サービス部門の業績

専門金融サービス部門の 2024 年度第 3 四半期の**収益**は 8 億 6,900 万ユーロとなりましたが、2023 年度第 3 四半期比で 1.6% 減少しました。**費用**は 4 億 3,700 万ユーロで、2023 年度第 3 四半期と比べて 3.1% 増加しました。**コスト比率**は、2023 年度第 3 四半期と比べて 2.3 パーセント・ポイント上昇し、48% となりました。よって、**営業総利益**は 4 億 3,300 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 5.9% 減少しました。**リスク関連費用**は 2 億 2,300 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期並みとなりました。**持分法適用会社からの純利益**は大幅に増加し（2023 年度第 3 四半期比 4.5 倍）、2,300 万ユーロとなりました。CAPFM のモビリティ事業の再編に関連するベース効果³⁹を除くと、当該純利益の変動は 20.7% 減となりました。**その他資産の純利益**は 2023 年度第 3 四半期の 5,700 万ユーロに対し、マイナス 200 万ユーロとなりました。CAPFM のモビリティ事業の再編に関連するベース効果³⁹を除くと、当該純利益の変動は 52.5% 減となりました。同部門の**純利益グループ帰属分**は 1 億 7,200 ユーロで、2023 年度第 3 四半期比 15.6% 減、ベース効果³⁹を除くと同 7% 減となりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間に専門金融サービス部門の**収益**は前年同期比 4.1% 減少しましたが、CAPFM のモビリティ事業の再編に関連するベース効果⁴⁰を除けば、前年同期比 7.8% 増加しました。この良好な傾向の原動力となったのは、CAL&F 事業の好業績（8.5% 増）とベース効果⁴⁰を除いた CAPFM の増収（7.6% 増）でした。CAPFM の増収については、CAPFM のモビリティ事業を中心とした戦略的な事業転換（2023 年度第 2 四半期からのクレディ・アグリコル・オートバンクの完全連結、欧州 6 か国における ALD 事業及びリースプラン事業の完全連結、それに 2023 年度第 3 四半期の Hiflow の過半数株式の取得）に関連する連結範囲変更の影響が恩恵となりました。**SRF を除く基礎的費用**は 2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 8.9% 増加しました。SRF、ベース効果⁴⁰及び連結範囲変更の影響を除いた費用は 3.1% 増加しました。**コスト比率**は 51.2% で、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 6.1 パーセント・ポイント上昇しましたが、ベース効果⁴⁰を除くと、1.3 パーセント・ポイントの上昇となりました。**リスク関連費用**は 6 億 5,300 万ユーロで 2023 年 9 ヶ月累計期間比で 4.9% 減少しましたが、ベース効果⁴⁰を除くと同 8.4% 増となりました。この増加は、連結範囲変更の影響などを織り込んでいます。**持分法適用会社の寄与**は 2023 年度 9 ヶ月累計期間比で 8.5% 減、ベース効果⁴⁰を除くと同 35.9% 減となりました。これは、従来は持分法が適用されていたクレディ・アグリコル・オートバンクを 2023 年度第 2 四半期に完全連結したことによるものです。**その他資産からの純利益**は 2024 年 9 月末時点で、2023 年 9 月末時点の 8,100 万ユーロに対して、マイナス 300 万ユーロ（ベース効果⁴⁰を除くとマイナス 700 万ユーロ）となりました。これにより、**純利益グループ帰属分**は 5 億 200 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 21% 減少しましたが、CAPFM のモビリティ事業の再編に関連するベース効果⁴⁰を除くと同 5.4% 増加しました。

同部門は、2024 年 9 月末時点でクレディ・アグリコル S.A. の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）

³⁹2023 年度第 3 四半期のモビリティ事業の再編に関連するベース効果：収益 100 万ユーロ、持分法適用会社 2,600 万ユーロ、その他資産からの純利益 6,100 万ユーロ、法人税 1,600 万ユーロ、よって純利益グループ帰属分 1,900 万ユーロ

⁴⁰2023 年 9 ヶ月累計期間のモビリティ事業の再編に関連するベース効果：収益 3 億ユーロ、経費 1,800 万ユーロ、リスク関連費用 8,500 万ユーロ、持分法適用会社 3,900 万ユーロ、その他資産からの純利益 8,900 万ユーロ、法人税 8,900 万ユーロ、よって純利益グループ帰属分 1 億 5,900 万ユーロ

の基礎純利益グループ帰属分の 8%、コーポレート・センター部門を除く基礎収益の 13%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日現在、同部門に配分された資本は 68 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は 718 億ユーロでした。

2024 年 9 ヶ月累計期間の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 9.0%でした。

消費者金融及びモビリティの業績

2024 年度第 3 四半期の CAPFM の収益は 6 億 7,800 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 4.2%減少しました。価格効果は 2024 年度第 3 四半期に、前年同期比で低下しましたが、前四半期比では安定しました。これは、とりわけ過去数四半期の組成マージンの改善（2024 年第 3 四半期は前四半期比で安定、前年同期比で 86 ベーシス・ポイント上昇）によるものでした。費用は 3 億 3,800 万ユーロと抑制されましたが、2023 年度第 3 四半期と比べて 2.4%増加しました。営業総利益は 10%減少して 3 億 4,000 万ユーロとなりました。コスト比率は、2023 年度第 3 四半期と比べて 3.2 パーセント・ポイント上昇し、49.8%となりました。リスク関連費用は 2023 年度第 3 四半期比 2.4%減の 2 億 100 万ユーロとなりました。これにより、残高に対するリスク関連費用は 2023 年度第 3 四半期比で 16 ベーシス・ポイント改善し、112 ベーシス・ポイント⁴¹となりました。2024 年 9 月末時点の不良債権比率は 4.5%となり、2024 年 6 月末から 0.2 パーセント・ポイント上昇しましたが、不良債権引当率は 74.2%となり、2024 年 6 月末から 1.6 パーセント・ポイント低下しました。持分法適用会社からの寄与は前年同期比で大幅に増加しましたが（5.1 倍）、モビリティ事業の再編に関連するベース効果³⁹を除くと 20.7%減少しました。2024 年度第 3 四半期のその他資産からの純利益はマイナス 200 万ユーロとなりました（2023 年度第 3 四半期は 5,700 万ユーロ）。ベース効果³⁹を除いた 2023 年度第 3 四半期のその他資産からの純利益はマイナス 400 万ユーロでした。この結果、2024 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は前年同期比 20.9%減の合計 1 億 1,800 万ユーロとなりました。ベース効果³⁹を除くと、純利益グループ帰属分は 9.3%減となりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の CAPFM の収益は合計 20 億 4,200 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 7.1%減少しましたが、モビリティ事業の再編に関連するベース効果⁴²を除くと同 7.6%増加しました。2023 年度第 2 四半期からのクレディ・アグリコル・オートバンクの完全連結、欧州 6 か国における ALD 事業及び LeasePlan 事業の連結、それに 2023 年度第 3 四半期の HiFlow の過半数の株式取得につながったモビリティ事業関連の戦略的な事業転換に関連する連結範囲変更の影響が収益に恩恵となりました。SRF を除く費用は 10 億 3,500 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 9.9%増加しました。SRF、ベース効果⁴²及び連結範囲変更の影響を除いた費用は同 2.2%増となりました。これにより、営業総利益は 10 億 700 万ユーロとなり、19%減となりましたが、ベース効果⁴²を除くと 4.7%増となりました。コスト比率は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 7.9 パーセント・ポイント上昇し、50.7%となりました。ベース効果を修正再表示すると、2.1 パーセント・ポイントの上昇となりました。リスク関連費用は 5 億 9,100 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間比 7.3%減となりましたが、ベース効果⁴²を除くと 6.8%増となりました。この増加には、連結範囲変更の影響の効果などが含まれます。持分法適用会社の寄与は 2023 年 9 ヶ月累計期間比で 5.4%減、クレディ・アグリコル・オートバンクの連結範囲変更の影響に関連するベース効果⁴²を除くと同 33.1%減となりました。クレディ・アグリコル・オートバンクは 2023 年度第 2 四半期に完全連結されましたが、それまでは持分法が適用されていました。その他の資産からの利益は 55.5%減、ベース効果⁴²を除くと 63.4%減となりました。その結果、2024 年 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は 3 億 4,900 万ユーロとなり、前年同期比 31.3%減となりました。ベース効果⁴²を除くと、純利益グループ帰属分は前年同期並みの 0.1%減となりました。

⁴¹ 過去 4 四半期の期首の平均残高に対する直近 4 四半期のリスク関連費用の割合

⁴² 2023 年 9 ヶ月累計期間のモビリティ事業の再編に関連するベース効果：収益 3 億ユーロ、経費 1,800 万ユーロ、リスク関連費用 8,500 万ユーロ、持分法適用会社 3,900 万ユーロ、その他資産からの純利益 8,900 万ユーロ、法人税 8,900 万ユーロ、よって純利益グループ帰属分 1 億 5,900 万ユーロ

リースとファクタリングの実績

CAL&F の総収益は 1 億 9,200 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 8.5%増加しました。この増加の原動力となったのはすべて事業部門で、件数増加の影響（ファクタリング収益及び機器リース残高の増加）が恩恵となりました。費用は 4.8%増に抑制され、コスト比率は、2023 年度第 3 四半期から 1.8 パーセント・ポイント改善し、51.6%となりました。営業総利益は 12.7%増の 9,300 万ユーロとなり、乖離効果は 3.7 パーセント・ポイントのプラスとなりました。リスク関連費用は法人市場の経済状況に関連して、2023 年度第 3 四半期比 25.1%増の 2,200 万ユーロとなりました。残高に対するリスク関連費用は 22 ベーシス・ポイント⁴¹ となり、2023 年度第 3 四半期からわずかながら低下しました。その結果、純利益グループ帰属分は、2023 年度第 3 四半期に比べて 1.8%増加して 5,400 万ユーロとなりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間の収益は合計 5 億 6,300 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 8.5%増となりました。SRF を除いた費用は、5.7%増加して 2 億 9,800 万ユーロになりました。営業総利益は 2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 19.8%増の 2 億 6,500 万ユーロと大幅に増加しました。SRF を除いた基礎コスト比率は、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1.4 パーセント・ポイント改善し、53%となりました。リスク関連費用は 2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて増加しました（26.7%増）。当部門の基礎純利益グループ帰属分への寄与は 1 億 5,300 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 20.2%増加しました。

クレディ・アグリコル S.A.リテール・バンキング部門の活動

クレディ・アグリコル S.A.のリテール・バンキング部門の活動は当四半期も堅調で、顧客獲得は引き続き順調に進んでおり、保険契約に加入した顧客数も増加しました。フランスでは住宅ローンの組成が着実に回復していますが、企業向けローンも引き続き増加しています。フランス以外の貸付は活発に行われました。

フランスのリテール・バンキング部門の活動

2024 年第 3 四半期の事業活動は活況を呈し、住宅ローンの回復が確認され、資金流入の構成が引き続き安定しました。

2024 年第 3 四半期の新規顧客獲得数は 7 万 6,000 人、純顧客獲得数は 9,700 人となりました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険または傷害保険におけるクロスセル・レートは、前年同期比で 0.3 パーセント・ポイント上昇し、2024 年 9 月末には 27.9%になりました。

ローン組成は前年同期比 11%増の総額 75 億ユーロとなりました。2024 年度第 3 四半期は、積極的な価格設定政策に後押しされ、住宅ローン組成の回復（2023 年度第 3 四半期比 17%増、2023 年度第 2 四半期比 73%増）が確認されました。住宅ローンの平均組成率は 3.38%で、2024 年度第 2 四半期から 46 ベーシス・ポイント低下し、2023 年度第 3 四半期比では 32 ベーシス・ポイント低下しました。住宅ローンの残高率は 2024 年度第 2 四半期比で 5 ベーシス・ポイント、2023 年度第 3 四半期比で 18 ベーシス・ポイント改善しました。企業向け市場では堅調な勢いが継続しました（前年同期比 16%増）。中小企業向けの組成は、競争の激しい市場環境と厳しい経済環境のなか減少しました。

2024 年 9 月末時点の貸出残高は 1,690 億ユーロで、前四半期比で 0.4%増、前年同期比で 0.5%増となりました（うち住宅ローンは 0.6%増、スモールビジネス向け貸付は 0.7%増、消費者金融は 1.0%増、企業向け貸付は 0.1%減）。2024 年 9 月末現在の顧客資産総額は、利付預金とオフ・バランスシートの資金が原動力となり、前年同期比 5.1%増の 2,533 億ユーロとなりました。顧客資産は 2024 年第 3 四半期も前年同期比 0.6%増とやや増加しました。これは、依然として不透明な環境にある要求払預金高（2024 年 6 月末比 0.4%増）のほか、定期預金高（2024 年 6 月末比 2.9%減）も引き続き安定したことによるものです。オフ・バランスシートの預金は、すべてのセグメントでの前年同期比プラスの市場効果と、生命保険事業でのプラスの純資金流入から恩恵を受けました。

イタリアのリテール・バンキング部門の活動

2024 年第 3 四半期、CA イタリアの総顧客獲得数は 4 万 3,000 人となり、顧客基盤は約 13,000 人増加しました。

CA イタリアの 2024 年 9 月末時点の貸出残高は 613 億ユーロ⁴³に達し、2023 年 9 月末比で 3.0%増加しました。これは、イタリア市場の低迷⁴⁴にもかかわらず、主に小売部門において 3.6%の残高増を達成したことによるものです。ローン組成は全市場における堅調な勢いに支えられ、2023 年度第 3 四半期に比べて 7.5%増加しました。住宅ローンの組成は、2023 年度第 3 四半期に実施した販促キャンペーンの成功に関連するベース効果により、前年同期比 12%減となったものの、安定して推移しました（2024 年度第 2 四半期比 7%増）。ローン残高率は、イタリアの市場金利の全体的な動向に沿って、2024 年度第 2 四半期比で 17 ベーシス・ポイント低下しました。

2024 年 9 月末の顧客資産は総額 1,174 億ユーロで、2023 年 9 月末から 3.7%増加しました。オン・バランスシートの預金は前年同期比 0.4%増と相対的に横ばいとなりましたが、資金コストは減少しました。最後に、オフ・バランスシートの預金は市場効果と資金流入の増加の恩恵を受けて 9.2%増加しました。

自動車、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険、すべての携帯電話保険及び傷害保険における CA イタリアのクロスセル・レートは 20.0%に上昇しました（2023 年度第 3 四半期と比べて 1.7 パーセント・ポイント上昇）。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の活動

イタリアを除く国際リテール・バンキングの 2024 年 9 月末時点の貸付残高は、2023 年 9 月末時点と比較して、現在の為替レートで 4.2%増加しました（為替変動の影響を除くと 6.7%増）。顧客資産は、現在の為替レートで前年同期比 0.4%増の微増となりました（為替変動の影響を除くと 8.1%増）。

特にポーランドでは、預金獲得競争が激しくなるなか、2023 年 9 月末比で貸付残高は 11.8%増（為替変動の影響を除くと 3.6%増）、顧客資産は同期間で 14%増（為替変動の影響を除くと 5.5%増）となりました。ポーランドにおけるローン組成も堅調に推移し、2023 年度第 3 四半期と比較して現在の為替レートで 32.4%増加しました（為替変動の影響を除くと 26%増）。

エジプトでは、貸付残高は 2023 年 9 月末から 2024 年 9 月末に 18.3%減少しました（為替変動の影響を除くと 34.6%増）。同期間の資金流入は 36.6%減少しましたが、為替変動の影響を除くと 4%増と引き続き増加しました。

ポーランドとエジプトでは、2024 年 9 月 30 日現在、融資を上回る預金が 16 億ユーロあり、ウクライナを含めると総額 32 億ユーロとなりました。

フランスのリテール・バンキングの業績

2024 年度第 3 四半期の LCL の収益は 9 億 7,900 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期の住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するベース効果⁴⁵により、2023 年度第 3 四半期比で 1.7%減少しました。このベース効果を除くと、収益は純利鞘及び手数料収入により同 3.7%増となりました。住宅購入貯蓄のベース効果⁴⁵を除いた純利鞘は、株式投資の評価替えに関連するプラスの特別項目により、前年同期比 2.3%⁴⁵増加しました。加えて、資金調達コストの上昇が引き続き純利鞘を押し下げましたが、ローンの段階的な価格改定によるプラスの影響とマクロヘッジの寄与による好影響（前年同期比ほぼ横ばい）で一部相殺されました。手数料収入はすべての事業が牽引し、2023 年度第 3 四半期比で 5.1%増加しました。

⁴³POCI 残高の控除後

⁴⁴出典：2024 年 7 月のイタリア銀行協会（Abi）の月次見通し：すべてのローンについて、2024 年 6 月前年比 1.9%減、年初来 1.2%減

⁴⁵2023 年度第 2 四半期の住宅購入貯蓄のベース効果（住宅購入貯蓄引当金の戻入）により、収益は 5,200 万ユーロ増加し、純利益グループ帰属分は 3,700 万ユーロ増加しました。

費用は同 3.2%増の 6 億 800 万ユーロとなりました。当期の増加は主に物件費及び IT 費用の増加に関連しています。コスト比率は、2023 年度第 3 四半期と比べて 2.9 パーセント・ポイント上昇し、62.1%となりました。営業総利益は同 8.8%減の 3 億 7,100 万ユーロとなりました（住宅購入貯蓄のベース効果⁴⁵を除くと 4.5%増）。

リスク関連費用は 2023 年度第 3 四半期比 17%増の 8,200 万ユーロとなりました（内訳は正常債権に対するリスク関連費用 1,800 万ユーロ、確認済みリスク関連費用 9,400 万ユーロ、その他のリスク関連費用 500 万ユーロ）。この増加は、特定の企業グループや消費者金融セグメントなどによるものです。残高に対するリスク関連費用は抑制され、23 ベーシス・ポイントとなりました。2024 年 9 月末時点の不良債権引当率は 59.8%となりました（2024 年 6 月末時点に比べて 1 パーセント・ポイント低下）。2024 年 9 月末の不良債権比率は 2.1%となり、2024 年 6 月末並みとなりました（0.1 パーセント・ポイント上昇）。その結果、純利益グループ帰属分は 2024 年度第 3 四半期比 19.2%減少しました（住宅購入貯蓄のベース効果⁴⁵を除くと 6.2%減少）。

2024 年 9 ヶ月累計期間の LCL の収益は合計 29 億 1,200 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 0.7%増となりました。純利鞘は、借り換えの増加や資金調達コストの上昇を背景としたローンの段階的な価格改定やマクロヘッジのプラスの影響、それに 2024 年度第 2 四半期及び第 3 四半期のプラスの特別項目（株式投資の評価の好影響）により、やや上昇しました（0.5%増）。手数料収入は、2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 0.9%増となりました（特に生命保険セグメントと支払手段セグメントにおいて、2023 年の小切手画像に関するベース効果⁴⁶が影響）。SRF を除いた経費は、人件費及び IT 費用の増加により、同 3.4%増となりましたが、税制上の一過性の影響と退職給付関連のベース効果により一部相殺されました。SRF を除いたコスト比率は 61.8%となりました（2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1.6 パーセント・ポイント増加）。営業総利益は前年同期比 0.5%の微増となりました。リスク関連費用は、法人の確認済みリスク及び最近の消費者金融の組成の増加が影響し、44.3%増加しました。全体として、当部門の純利益グループ帰属分への寄与は 9.8%減（住宅購入貯蓄のベース効果を除くと 5%減）の 6 億 700 万ユーロとなりました。

最終的に、当部門は、2024 年 9 ヶ月累計期間におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 10%に寄与し、またコーポレート・センター部門を除いた**基礎収益**の 14%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日時点で、当部門に**配分された資本**は合計 53 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 553 億ユーロでした。2024 年 9 ヶ月累計期間の LCL の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 14.4%でした。

国際リテール・バンキングの業績⁴⁷

2024 年第 3 四半期には、**国際リテール・バンキング部門**の収益は 10 億 600 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 1.8%減の微減（為替変動の影響を除くと 1.2%増）となりました。**営業費用**は 5 億 1,900 万ユーロに抑制され、同 3.1%増（為替変動の影響を除くと同 4.4%増）となりました。**営業総利益**は 4 億 8,600 万ユーロとなり、同 6.5%減（為替変動の影響を除くと同 2.1%減）となりました。**リスク関連費用**は 5,900 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 51.1%減少しました（為替変動の影響を除くと 50.1%減）。

2024 年度第 3 四半期の CA イタリア、CA エジプト、CA ポーランド、CA ウクライナの全体の純利益グループ帰属分は、13.9%増（為替変動の影響を除くと 12.9%減）の 1 億 9,400 万ユーロとなりました。これには、ウクライナの法人税率の変更に伴う 4,000 万ユーロの悪影響が含まれます。

⁴⁶2023 年第 2 四半期における 2,100 万ユーロの小切手画像処理の罰金に対する引当金の戻入

⁴⁷2024 年 9 月 30 日時点で、この範囲には CA イタリア、CA Polska、CA エジプト、CA ウクライナの事業体が含まれません。

2024 年 9 ヶ月累計期間の国際リテール・バンキング部門の収益は 3.9%増の 30 億 9,000 万ユーロ（為替変動の影響を除くと 0.6%増）でした。SRF と DGS を除く費用は 15 億 2,200 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 2.1%増加しました。営業総利益は 15 億 1,000 万ユーロとなり、4.6%増加しました（為替変動の影響を除くと 1.1%増）。リスク関連費用は 2 億 1,300 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 41.0%減少しました（為替変動の影響を除くと 23.0%減）。最終的に、国際リテール・バンキング部門の純利益グループ帰属分は、2023 年 9 ヶ月累計期間の 6 億ユーロに対して 6 億 7,800 万ユーロとなりました。これにはウクライナの法人税率の変更に伴う約 4,000 万ユーロの悪影響が含まれています。

国際リテール・バンキング部門は 2024 年 9 ヶ月累計期間にクレディ・アグリコル S.A.の中核事業部門（コーポレート・センターを除く）の基礎純利益グループ帰属分の 12%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 15%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日現在、国際リテール・バンキング部門に配分された資本は 44 億ユーロで、リスク・ウェイト資産は合計 463 億ユーロでした。

イタリアの業績

2024 年度第 3 四半期のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は 7 億 6,400 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期に比べて 2.5%減少しました。収益は、2023 年度第 3 四半期比での純利鞘の 2.5%減の影響を受けましたが、同 0.7%増と相対的に横ばいとなった運用資産の手数料収入により押し上げられました。営業費用は 2023 年第 3 四半期比で 0.9%と横ばいで推移しました。

2024 年度第 3 四半期のリスク関連費用は 2023 年度第 3 四半期比 43.4%減の 4,800 万ユーロとなりました。これは確認済みリスクに対する引当金にほぼ相当します。残高に対するリスク関連費用⁴⁸は 2024 年度第 2 四半期比で 6 ベーシス・ポイント改善し、44 ベーシス・ポイントとなりました。不良債権比率は 3.0%と、2024 年度第 2 四半期比で改善し、不良債権引当率は 73.6%となりました（2024 年度第 2 四半期から 1.2 パーセント・ポイント上昇）。CA イタリアの純利益グループ帰属分は、2023 年度第 3 四半期に比べて 1.3%減少して 1 億 6,400 万ユーロとなりました。

2024 年 9 ヶ月累計期間のクレディ・アグリコル・イタリアの収益は前年同期比 0.8%増と微増の 23 億 2,300 万ユーロとなりました。SRF と DGS（イタリアの預金保証基金）を除く経費は 11 億 6,100 万ユーロと抑制され、2023 年 9 ヶ月累計期間比で 0.2%減の微減となりました。営業総利益は 11 億 500 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間比で 0.3%増とわずかながら増加しました。リスク関連費用は、2023 年 9 ヶ月累計期間から 27.2%減少し、1 億 7,000 万ユーロとなりました。この結果、CA イタリアの純利益グループ帰属分は 4 億 9,700 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 4.4%増加しました。

2024 年 9 月 30 日時点の CA イタリアの基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は 22.6%となりました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）の業績

2024 年度第 3 四半期には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は 2 億 4,200 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 0.4%増加（為替変動の影響を除くと 14.8%増加）しました。ポーランドでの収益は、純利鞘の上昇と手数料収入の大幅な上昇傾向に後押しされ、2023 年度第 3 四半期比で 22.2%増加（為替変動の影響を除くと 16.1%増加）しました。エジプトでの収益は、為替レートの変動（エジプト・ポンド安）により減少（2023 年度第 3 四半期比 19.9%減）しましたが、為替変動の影響を除くと純利鞘の急拡大により非常に好調（32.7%増）となりました。イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の営業費用は 1 億 2,200 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 11.0%増加（為替変動の影響を除くと 17.8%増加）しました。営業総利益は 1 億 2,000 万ユーロとなり、2023 年第 3 四半期比で 8.5%減少しました（為替変動の影響を除くと 11.8%増）。リスク関連費用は 1,100 万ユーロとなり、同 68.9%減少しました（為替変動の影響を除くと 68.9%減）。さらに、2024 年 9 月末時点で、貸付残高の不良債権引当率はポーランドで 121%、エジプトで 139%と高水準にとどまっています。ウクライナでは、国内の不良債権引当率は引き続き慎重な水準（335%）となっています。全体では、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門は純利益グループ帰属分に 3,000 万ユーロ寄与し、2023 年第 3 四半期と比べて 49.1%減少しました。

⁴⁸ ローリング 4 四半期ベース。

2024 年 9 ヶ月累計期間には、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門の収益は 7 億 6,700 万ユーロとなり、純利鞘の拡大により 2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 14.3%増加（為替変動の影響を除くと 25.0%増加）しました。営業費用は 3 億 6,100 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 10.2%増加しました（為替変動の影響を除くと 12.8%増）。2024 年 9 月末時点のコスト比率は 47.1%となりました（2023 年 9 月末時点のコスト比率から 1.8 ポイント改善）。大幅な増収により、営業総利益は 4 億 600 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 18.3%増加しました（為替変動の影響を除くと 38.4%増）。リスク関連費用は 4,300 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 66.4%減少しました（為替変動の影響を除くと 65.8%減）。全体では、イタリアを除く国際リテール・バンキング部門は純利益グループ帰属分に 1 億 8,200 万ユーロ寄与しました。

その他 IRB（CA イタリアを除く）の基礎 RoNE（調整株主資本利益率）は、2024 年 9 月 30 日時点で 33.0%となりました。

2024 年 9 月 30 日時点で、リテール・バンキング事業部門全体では、クレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 22%、コーポレート・センター部門を除く基礎収益の 29%に寄与しました。

2024 年 9 月 30 日現在、同部門の資本は 97 億ユーロでした。また、リスク・ウェイト資産は合計 1,016 億ユーロとなりました。

コーポレート・センターの業績

2024 年度第 3 四半期のコーポレート・センター部門の純利益グループ帰属分はマイナス 1 億 6,100 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期から 1 億 600 万ユーロ減少しました。コーポレート・センター部門のマイナス寄与は、「構造的」寄与（マイナス 1 億 6,100 万ユーロ）とその他の項目（100 万ユーロ）に区別して分析することができます。

「構造的」部分の寄与（マイナス 1 億 6,100 万ユーロ）は 2023 年第 3 四半期と比べて 1 億 3,800 万ユーロ減少し、その内訳は次の 3 事業に分けられます。

- 親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業と機能。当該寄与は、2024 年度第 3 四半期に 7,500 万ユーロ減のマイナス 1 億 4,000 万ユーロとなりました。これはとりわけ、2023 年度第 3 四半期に計上された住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するマイナス 1 億 7,100 万ユーロのベース効果によるものでした。
- CACIF（未公開株式）、CA イモビリエ、CATE、BforBank（持分法適用）など、中核事業に含まれない事業ライン。これらの事業ラインの寄与は 2024 年度第 3 四半期にマイナス 2,800 万ユーロとなり、2023 年度第 3 四半期と比べて 6,500 万ユーロ減少しました。これは、Banco BPM の有価証券の評価替えによるマイナス 3,500 万ユーロ（2023 年度第 3 四半期比のプラス 4,000 万ユーロに対し、2024 年度第 3 四半期はプラス 500 万ユーロ）の悪影響に加え、ポートフォリオの悪化が特に Foncaris⁴⁹の保証付き融資の潜在リスク（ステージ 1 及び 2）の関連費用を押し上げたためです。
- グループ支援機能。当四半期の寄与は 700 万ユーロでした（2023 年度第 3 四半期比で 300 万ユーロ増加）。

「その他の項目」の寄与は 2023 年第 3 四半期と比べて 3,200 万ユーロ増加しました。

クレディ・アグリコル全体での保険事業の連結に伴う「内部マージン」効果は、コーポレート・センターを通じて計上されました。内部マージンの影響は当四半期、収益で - 2 億 1,100 万ユーロ、経費で +2 億 1,100 万ユーロでした。

2024 年 9 ヶ月累計期間のコーポレート・センター部門による基礎純利益グループ帰属分はマイナス 5 億 600 万ユーロとなり、2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1 億 3,100 万ユーロ減少しました。同部門の 2024 年 9 ヶ月累計期間の構造的部分の寄与はマイナス 5 億 1,300 万ユーロとなり、他の項目の寄与はプラス 700 万ユーロとなりました。

「構造的」部分の寄与は 2023 年 9 ヶ月累計期間に比べて 200 万ユーロ減少しました。当該寄与は次の 3 事業

⁴⁹ クレディ・アグリコル S.A. の完全子会社である信用機関。地域銀行の保有する多額の信用エクスポージャーは Foncaris で表示しなければならず、同社は当該エクスポージャーを一部保証しています。

に分けることができます。

- 親会社クレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターの事業と機能。当該事業の寄与は、2023 年度第 3 四半期に計上された住宅購入貯蓄引当金の戻入に関連するマイナス 1 億 7,100 万ユーロのベース効果を含め、2024 年度 9 ヶ月累計期間に 2023 年 9 ヶ月累計期間比で 5,500 万ユーロ減のマイナス 7 億 6,700 万ユーロとなりました。
- CACIF（未公開株式）、CA イモビリエ、BforBank など、中核事業に付随しない事業ライン。これらの事業ラインの寄与は 2024 年 9 ヶ月累計期間にプラス 2 億 3,400 万ユーロとなり、SRF 積立期間（2023 年上半期はマイナス 7,700 万ユーロ）の終了に加えて、Banco BPM の有価証券の評価及び配当のプラス 9,900 万ユーロの影響などにより、2023 年 9 ヶ月累計期間（プラス 4,600 万ユーロ）と比べて増加しました。
- グループ支援機能。2024 年 9 ヶ月累計期間の寄与は、2023 年 9 ヶ月累計期間比 700 万ユーロ増の 2,000 万ユーロとなりました。

「その他の項目」の寄与は 2023 年 9 ヶ月累計期間と比べて 1 億 2,900 万ユーロ減少しました。

2024 年 9 月 30 日現在、リスク・ウェイト資産は 296 億ユーロでした。

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2024 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループの段階適用の普通株式等 Tier 1 (CET1) レシオは 17.4%となり、2024 年 6 月末から 0.1 パーセント・ポイント上昇しました。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と SREP 要件 9.8%との間で 7.6 パーセント・ポイントという大きなバッファを上げました。全面適用ベースの CET1 レシオは 17.3%でした。

2024 年第 3 四半期中には：

- CET1 レシオは、**留保利益**により、25 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。
- **事業ラインの内部的成長**に関連するリスク・ウェイト資産の変動は、クレディ・アグリコル・グループの CET 1 レシオに-27 ベーシス・ポイントの影響を与えました（以下を参照）。
- 方法及びその他の影響は+4 ベーシス・ポイントの好影響を及ぼしました。これには、従業員のための増資及び未実現損益の好転による寄与が含まれます。

2024 年 9 月末の段階導入の Tier 1 レシオは 18.3%、段階導入の総自己資本比率は 21.0%となりました。

段階導入のレバレッジ・レシオは 5.5%で、2024 年 6 月末比で安定しており、規制要件である 3.5%を大きく上回っています。

クレディ・アグリコル・グループの**リスク・ウェイト資産**は、2024 年 6 月 30 日と比べ、82 億ユーロ増加して 6,360 億ユーロになりました。この変動は次のように事業ライン別に分類できます。リテール・バンキング部門は 73 億ユーロの増加、アセット・ギャザリング部門は 32 億ユーロの増加（保険部門の持分法による会計処理額の 31 億ユーロ増を含む）、専門金融サービス部門は 3 億ユーロの増加、大口顧客部門は 23 億ユーロの減少（クレディ・アグリコル CIB に有利な為替及び規制の影響が恩恵）、コーポレート・センター部門は 2 億ユーロの減少となりました。

最大分配可能額（MDA 及び L-MDA）トリガー閾値

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで（CRD）、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額（MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額）の原則は、分配が総合資本バッファ要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDA トリガーまでの距離は、CET1 資本、Tier 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 9 月 30 日時点で **MDA トリガーを 670 ベーシス・ポイント（CET1 資本の 430 億ユーロ）上回る**バッファとなりました。

レバレッジ・レシオ・バッファの要件に従わない場合、分配の制限と最大分配可能額（L-MDA）の計算が行われます。

クレディ・アグリコル・グループは、2024 年 9 月 30 日時点で **L-MDA トリガーを 196 ベーシス・ポイント（ティア 1 資本で 420 億ユーロ）上回る**バッファとなりました。クレディ・アグリコル・グループのレベルでは、L-MDA トリガーまでの距離で分配制限までの距離が決まります。

クレディ・アグリコル S.A.は、2024 年 9 月 30 日時点で **MDA トリガーを 280 ベーシス・ポイント（CET1 資本で 110 億ユーロ）上回る**バッファとなりました。クレディ・アグリコル S.A.は L-MDA 要件の対象外です。

クレディ・アグリコル S.A.が 2024 年 10 月 2 日に実施した額面 12 億 5,000 万ドルの AT1 債の新規発行は、クレディ・アグリコル・グループの Tier1 資本比率及び総資本比率を 18 ベーシス・ポイント、またレバレッジ比率を 5 ベーシス・ポイント押し上げました。当該発行はまた、クレディ・アグリコル S.A.の Tier1 資本比率及び総資本比率を 28 ベーシス・ポイント押し上げています。当該発行を 2024 年 9 月 30 日時点のソルベンシーレシオに織り込むと、クレディ・アグリコル・グループは MDA トリガーを 688 ベーシス・ポイント（CET1 資本で 440 億ユーロ）、また L-MDA トリガーを 201 ベーシス・ポイント（Tier1 資本で 430 億ユーロ）上回るバッファとなります。また、クレディ・アグリコル S.A.は MDA トリガーを 308 ベーシス・ポイント

(CET1 資本で 120 億ユーロ) 上回るバッファとなりします。

TLAC

クレディ・アグリコル・グループは、常に以下の TLAC レシオ要件に従う必要があります。

- リスク・ウェイト資産 (RWA) の 18%を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファ要件 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2024 年 9 月 30 日時点で 2.5%の資本保全バッファ、1%の G-SIB バッファ、0.77%に設定されたカウンターシクリカル・バッファ、0.01%の CA グループのシステミック・リスク・バッファ)。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、22.3%超の TLAC レシオに従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー (LRE) の 6.75%超となる TLAC レシオ。

クレディ・アグリコル・グループの 2025 年の目標は、適格優先シニア債を除き、TLAC レシオを RWA の 26%以上に維持することです。

2024 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオは、リスク・ウェイト資産の 27.3% 及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.2% (適格優先シニア債を除く)⁵⁰と、要件を大きく上回りました。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、当期中のリスク・ウェイト資産を越す自己資本・適格資産項目の急増に伴い、当四半期で 20 ベーシス・ポイント増加しました。レバレッジ・エクスポージャーの比率 (LRE) として表される TLAC レシオは、2024 年 6 月と比べて 20 ベーシス・ポイント上昇しました。

よって、当グループの適格優先シニア債を除く TLAC レシオは、RWA の 22.3%という現在の要件を 510 ベーシス・ポイント (320 億ユーロ) 上回っています。

2024 年 9 月末時点で、12 億 5,000 万ユーロの AT1 債に加えて、104 億ユーロ相当が市場で発行されています (非優先シニア債及びティア 2 債券)。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、352 億ユーロでした。

MREL

要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。2024 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループは、以下の MREL 最低合計要件を満たす必要があります：

- 22.01%の RWA、それに加えて EU 指令 CRD5 に準拠 (クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファ、1%の G-SIB バッファ、0.77%に設定されたカウンターシクリカル・バッファ、及び 2024 年 9 月 30 日時点の CA グループの 0.01%のシステミック・リスク・バッファ)。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、26.3%超の合計 MREL レシオを満たす必要があります。
- LRE の 6.25%。

2024 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 32.9% 及びレバレッジ・エクスポージャーの 9.8%と、MREL 要件を大きく上回りました。

追加的な劣後要件 (「劣後 MREL」) も破綻処理当局により決定され、RWA と LRE の比率で表されます。2024 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL 要件は以下の通りです：

- 18.25%の RWA に加えて、複合的な資本バッファ要件。総合資本バッファ要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、22.5%超の劣後 MREL レシオを満たす必要があります。
- レバレッジ・エクスポージャーの 6.25%

⁵⁰ クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則 (CRR) 第 72b 条 3 項が認めている、2024 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。

2024 年 9 月 30 日時点のクレディ・アグリコル・グループの劣後 MREL レシオは、リスク・ウェイト資産の 27.3%及びレバレッジ・エクスポージャーの 8.2%と、MREL 要件を大きく上回りました。

MREL 要件に関連する最大分配可能額（M-MDA）トリガーまでの距離は、RWA で表される MREL、劣後 MREL 及び TLAC 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

2024 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル・グループは M-MDA トリガーを 480 ベーシス・ポイント上回るバッファ（CET1 資本で 310 億ユーロ）となりました。M-MDA トリガーまでの距離は、劣後 MREL 比率と対応要件との間の距離に相当します。

クレディ・アグリコル S.A.

2024 年 9 月 30 日時点で、クレディ・アグリコル S.A.のソルベンシーレシオは中期計画目標を上回っており、段階適用の普通株式 Tier 1（CET1）レシオは 11.7%となり、2024 年 6 月末と比べて 0.1 パーセント・ポイント上昇しました。この結果、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 8.6%という SREP 要件の間で 3.1 パーセント・ポイントという十分なバッファを達成しました。全面適用ベースの CET1 レシオは 11.7%でした。

2024 年第 3 四半期中には：

- 当四半期の CET1 レシオは、**留保利益**に関連する 19 ベーシス・ポイント改善の恩恵を受けました。この影響は、AT1 債券利息の控除後（プラス 38 ベーシス・ポイントの影響）及び利益の 50%分配の控除後（すなわち 2024 年度第 3 四半期の 1 株当たり 0.25 ユーロの配当準備金（マイナス 19 ベーシス・ポイントの影響））の純利益グループ帰属分に対応します。
- 事業ラインの自律的成長に関連する**リスク・ウェイト資産**の変動は、保険事業ラインにおけるマイナス 5 ベーシス・ポイント（持分法による会計処理額の四半期比増）を含め、CET1 レシオにマイナス 14 ベーシス・ポイントの影響を与えました。
- 方法及びその他の影響は+10 ベーシス・ポイントの好影響を及ぼしました。これには、従業員のための増資及び未実現損益の改善傾向による寄与が含まれます。

2024 年 9 月末時点で、段階適用の**レバレッジ比率**は 3.8%となり、2024 年 6 月末と比べて横ばいで、規制要件である 3%を上回っています。

当四半期末の段階導入の **Tier 1 レシオ**は 13.2%、段階導入の総自己資本比率は 17.3%となりました。

クレディ・アグリコル S.A.の**リスク・ウェイト資産**は、2024 年 9 月末には、2024 年 6 月 30 日と比べて 31 億ユーロ増加して 4,020 億ユーロになりました。この変動は次のように中核事業ライン別に分類できます。

- リテール・バンキング部門はフランスを中心に、17 億ユーロの増加となりました。
- アセット・ギャザリング部門では、保険に関するリスク・ウェイト資産の 31 億ユーロ増（2024 年度第 3 四半期の持分法による会計処理額の増加）を含め、32 億ユーロの増加となりました。
- 専門金融サービス部門は 2 億ユーロ増と横ばいで推移しました。
- 大口顧客部門は、主に CIB における為替及び規制の影響の結果、リスク・ウェイト資産が前四半期比 24 億ユーロの減少となりました。
- コーポレート・センター部門は、リスク・ウェイト資産が 4 億ユーロ増加しました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、クレディ・アグリコル・グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクションの間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これはバンキング部門の範囲に関係するものであり、保険事業はそれぞれの独自の規制上の制約に従って管理されます。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2024 年 9 月末時点で総額 680 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,570 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、除外されています。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2024 年 9 月末現在で 1,810 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門（CIB）が保有する非流動証券に関係し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額（2024 年 9 月末時点で 1,050 億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中長期レポ取引も「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2024 年 9 月 30 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 7,190 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 1,880 億ユーロ**で、2024 年 6 月末と比べて 100 億ユーロ減少しました。

クレディ・アグリコル・グループの T-LTRO3 の残高の合計は、2024 年 9 月 30 日現在で 7 億ユーロでした。

また、流動性が超過していることから、2024 年 9 月 30 日現在、当グループは短期貸付のポジション（中央銀行預け金が短期債務純額を上回っていること）を維持しています。

中長期市場資金は 2024 年 9 月 30 日現在で 2,630 億ユーロとなり、2024 年 6 月末からわずかながら増加しました。

これには、760 億ユーロの担保付きシニア債、1,250 億ユーロの優先シニア債、370 億ユーロの非優先シニア債、250 億ユーロの Tier 2 債券が含まれます。

2024 年 9 月 30 日時点の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット後の時価で 4,660 億ユーロとなり、2024 年 6 月 30 日から 120 億ユーロ減少しました。

流動性準備金は短期債務純額の 2 倍以上に達しました（中央銀行との置き換えを除く）。

流動性準備金の減少の主な要因は、以下のとおりです。

- 中央銀行預け金の 150 億ユーロ減

- 中央銀行に対する適格債権の 30 億ユーロ減（主に内部格付のある TRICP 信用債権の一時的な除外による）
- 証券ポートフォリオの 60 億ユーロ増（HQLA 証券の 30 億ユーロ増、非 HQLA 証券の 30 億ユーロ増）

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取り組みを継続しています。ヘアカット後の中央銀行適格非 HQLA 資産は 1,520 億ユーロとなりました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2024 年 9 月 30 日時点での月末の LCR レシオは、クレディ・アグリコル・グループが 147%（977 億ユーロの余剰に相当）、**クレディ・アグリコル S.A.が 152%**（922 億ユーロの余剰に相当）でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回りました。

加えて、**クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の安定調達比率（NSFR）は 100%を超え**、2021 年 6 月 28 日以降適用される規制要件に適合し、100%超という MTP 目標を上回っています。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も**中長期資金供給**について慎重な方針に従います。

2024 年 9 月 30 日時点で、当グループの主要発行体は、中・長期債によって市場で 510 億ユーロ相当額⁵¹、⁵²を調達し、このうちの 47%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。具体的には、グループでは以下の金額が計上されています。

- クレディ・アグリコル CIB は、グリーンボンド形式の 12 億ユーロを含め、仕組債形式で 179 億ユーロ発行しました。
- クレディ・アグリコル・パーソナル・ファイナンス & モビリティは、クレディ・アグリコル・オートバンク（CAAB）を介して 20 億ユーロ相当の EMTN を、また証券化により 7 億ユーロ相当を発行しました。
- CA イタリアは総額 15 億ユーロの 2 件の担保付きシニア債を発行し、そのうち 5 億ユーロはグリーン形式で発行しました。
- クレディ・アグリコル・ネクスト・バンク（スイス）は、総額 2 億スイスフランの担保付きシニア債形式で 2 件のトランシェを発行し、そのうち 1 億スイスフランはグリーンボンド形式で発行しました。
- クレディ・アグリコル・アシュアランスは 9 月に 7 億 5,000 万ユーロのティア 2 の 10 年後一括償還劣後債を発行し、2 件の永久劣後債（FR0012444750 及び FR 0012222297）を公開買い付けで 7 億 8,850 万ユーロで買い戻しました。

当グループの中長期の資金調達の内訳は以下の通りです。

- 担保付き資金調達 90 億ユーロ
- プレーンバニラ無担保資金調達 220 億ユーロ
- ストラクチャード・ファイナンス 179 億ユーロ
- 機関からの長期預金と CD23 億ユーロ

さらに、117 億ユーロがオフマーケットの発行により調達され、以下の内訳となりました。

- バンキング・ネットワーク（当グループのリテール・バンキングまたは外部のネットワーク）から 95 億ユーロ
- 国際的な組織または金融機関から 6 億 5,000 万ユーロ
- 国内の借り換え媒体（信用機関 CRH を含む）から 16 億ユーロ

⁵¹ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁵² AT1 発行を除く

2024 年 9 月 30 日、クレディ・アグリコル S.A.は市場を通じて 241 億ユーロ相当の資金⁵³、⁵⁴を調達しました。これは 2024 年の借換プログラムの 93%に相当します。

当行は 241 億ユーロ相当額を調達し、9 月末時点で、このうち 73 億ユーロ相当額が非優先シニア債、31 億ユーロ相当額が Tier 2 債券、72 億ユーロ相当額が優先シニア債、65 億ユーロ相当額が担保付シニア債でした。資金調達は以下を含め、様々な形式と通貨で構成されています。

- 63 億ユーロ⁵⁵
- 63 億 5,000 万米ドル (58 億ユーロ相当)
- 11 億ポンド (13 億ユーロ相当)
- 2,300 億円 (14 億ユーロ相当)
- 8 億スイスフラン (8 億ユーロ相当)
- 17 億 5,000 万豪ドル (11 億ユーロ相当)
- 70 億人民元 (9 億ユーロ相当)

クレディ・アグリコル S.A.は 9 月末時点で資金調達計画の 64%をユーロ以外の通貨で発行しています⁵⁶、⁵⁷。

2024 年 1 月 2 日にクレディ・アグリコル S.A.は 12 億 5,000 万ユーロの NC6 年 AT1 永久債を発行し、当初の利率は 6.5%でした。2024 年 9 月 24 日には、12 億 5,000 万ドルの NC10 年 AT1 永久債を発行し、当初の利率は 6.7%でした。

⁵³ 買戻し及び部分返済控除前の総額

⁵⁴ AT1 発行を除く

⁵⁵ 担保付きシニア債を除く

⁵⁶ 担保付きシニア債を除く

⁵⁷ AT1 発行を除く

付属資料 1 – 特殊要因（クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.）

クレディ・アグリコル・グループ – 特殊要因

	Q3-24		Q3-23		9M-24		9M-23	
€m	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	4	3	2	2	46	34	(21)	(15)
Loan portfolio hedges (LC)	(1)	(1)	(2)	(1)	6	5	(26)	(19)
Home Purchase Savings Plans (LCL)	-	-	52	38	1	1	52	38
Home Purchase Savings Plans (CC)	-	-	230	171	(0)	(0)	230	171
Home Purchase Savings Plans (RB)	-	-	118	88	63	47	118	88
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	1	0	-	-	300	214
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	-	-	-	-	42	42
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	-	-	-	-	21	21
Check Image Exchange penalty (RB)	-	-	-	-	-	-	42	42
Total impact on revenues	3	2	402	298	117	87	758	581
Degroof Petercam integration costs (AG)	(8)	(6)	-	-	(14)	(10)	-	-
ISB integration costs (LC)	(26)	(14)	-	-	(70)	(37)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	-	-	(18)	(13)
Total impact on operating expenses	(34)	(20)	-	-	(84)	(47)	(18)	(13)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	-	-	(85)	(61)
Provision for risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Total impact on cost of credit risk	-	-	-	-	(20)	(20)	(85)	(61)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)
Total impact equity-accounted entities	-	-	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)
Degroof Petercam aquisition costs (AG)	(3)	(2)	-	-	(23)	(17)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	61	45	-	-	89	57
Total impact on Net income on other assets	(3)	(2)	61	45	(23)	(17)	89	57
Total impact of specific items	(34)	(20)	436	317	(10)	3	705	525
Asset gathering	(11)	(8)	-	-	(37)	(27)	-	-
French Retail banking	-	-	170	126	65	48	233	189
International Retail banking	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	35	19	-	-	247	159
Large customers	(23)	(12)	1	0	(18)	1	(47)	(35)
Corporate centre	-	-	230	171	(0)	(0)	272	213

* Impact before tax and before minority interests

クレディ・アグリコル S.A.ー 特殊要因

€m	Q3-24		Q3-23		9M-24		9M-23	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	4	3	2	2	46	33	(21)	(15)
Loan portfolio hedges (LC)	(1)	(1)	(2)	(1)	6	5	(26)	(19)
Home Purchase Savings Plans (FRB)	-	-	52	37	3	2	52	37
Home Purchase Savings Plans (CC)	-	-	230	171	(2)	(1)	230	171
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	1	0.5	-	-	300	214
Check Image Exchange penalty (CC)	-	-	-	-	-	-	42	42
Check Image Exchange penalty (LCL)	-	-	-	-	-	-	21	20
Total impact on revenues	3	2	284	209	53	39	598	450
Degroof Petercam integration costs (AG)	(8)	(6)	-	-	(14)	(10)	-	-
ISB integration costs (LC)	(26)	(14)	-	-	(70)	(37)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	-	-	(18)	(13)
Total impact on operating expenses	(34)	(19)	-	-	(84)	(47)	(18)	(13)
Provision for risk Ukraine (IRB)	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	-	-	-	-	(85)	(61)
Total impact on cost of credit risk	-	-	-	-	(20)	(20)	(85)	(61)
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)
Total impact equity-accounted entities	-	-	(26)	(26)	-	-	(39)	(39)
Degroof Petercam aquisition costs (AG)	(3)	(2)	-	-	(23)	(17)	-	-
Mobility activities reorganisation (SFS)	-	-	61	45	-	-	89	57
Total impact Net income on other assets	(3)	(2)	61	45	(23)	(17)	89	57
Total impact of specific items	(34)	(20)	318	227	(73)	(45)	545	394
Asset gathering	(11)	(8)	-	-	(37)	(26)	-	-
French Retail banking	-	-	52	37	3	2	73	57
International Retail banking	-	-	-	-	(20)	(20)	-	-
Specialised financial services	-	-	35	19	-	-	247	159
Large customers	(23)	(12)	1	0	(18)	1	(47)	(34)
Corporate centre	-	-	230	171	(2)	(1)	272	213

* Impact before tax and before minority interests

付属資料 2 - クレディ・アグリコル・グループ：部門別損益計算書

クレディ・アグリコル・グループ - 部門別実績 (2023 年度第 3 四半期と 2024 年度第 3 四半期)								
	Q3-24 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,266	979	1,029	1,857	869	2,054	(842)	9,213
Operating expenses excl. SRF	(2,409)	(608)	(539)	(868)	(437)	(1,240)	511	(5,590)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	857	371	490	989	433	814	(331)	3,623
Cost of risk	(364)	(82)	(60)	(13)	(223)	(19)	(40)	(801)
Equity-accounted entities	0	-	-	33	23	6	-	61
Net income on other assets	0	0	0	(3)	(2)	(0)	(2)	(5)
Income before tax	493	290	430	1,006	231	801	(372)	2,877
Tax	(122)	(66)	(176)	(156)	(42)	(234)	210	(587)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	371	224	254	850	189	566	(162)	2,291
Non controlling interests	(1)	(0)	(40)	(128)	(17)	(35)	10	(211)
Net income Group Share	371	223	214	722	172	531	(153)	2,080
	Q3-23 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	3,345	996	1,046	1,657	883	1,888	(567)	9,249
Operating expenses excl. SRF	(2,328)	(589)	(522)	(718)	(424)	(1,139)	454	(5,265)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,018	407	524	939	460	749	(113)	3,984
Cost of risk	(254)	(70)	(126)	(0)	(224)	(13)	(6)	(693)
Equity-accounted entities	1	-	1	24	5	6	0	37
Net income on other assets	0	18	1	(5)	57	(2)	(0)	69
Income before tax	765	355	400	958	298	740	(119)	3,397
Tax	(178)	(79)	(118)	(221)	(77)	(203)	65	(810)
Net income from discount'd or held-for-sale ope.	(0)	-	2	-	(0)	-	-	2
Net income	587	277	284	737	220	537	(53)	2,588
Non controlling interests	(0)	(0)	(42)	(110)	(17)	(39)	4	(204)
Net income Group Share	587	277	242	628	204	497	(49)	2,384

クレディ・アグリコル・グループ 部門別実績（2024 年 9 ヶ月累計期間と

2023 年 9 ヶ月累計期間)

	9M-24 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	9,834	2,912	3,161	5,596	2,605	6,544	(2,407)	28,244
Operating expenses excl. SRF	(7,453)	(1,801)	(1,637)	(2,435)	(1,333)	(3,741)	1,535	(16,866)
SRF	-	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	2,381	1,111	1,523	3,161	1,272	2,803	(872)	11,378
Cost of risk	(1,056)	(295)	(219)	(18)	(653)	(25)	(59)	(2,324)
Equity-accounted entities	7	-	-	94	83	20	-	203
Net income on other assets	3	5	0	(23)	(3)	2	(3)	(19)
Income before tax	1,335	820	1,305	3,214	699	2,800	(935)	9,238
Tax	(313)	(185)	(436)	(658)	(138)	(717)	343	(2,104)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-	-
Net income	1,022	635	869	2,557	560	2,083	(592)	7,134
Non controlling interests	(1)	(0)	(129)	(364)	(59)	(104)	15	(643)
Net income Group Share	1,021	635	739	2,193	502	1,979	(577)	6,491

	9M-23 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	10,032	2,891	3,040	5,144	2,717	5,844	(1,946)	27,722
Operating expenses excl. SRF	(7,217)	(1,742)	(1,542)	(2,148)	(1,224)	(3,298)	1,389	(15,782)
SRF	(111)	(44)	(40)	(6)	(29)	(312)	(77)	(620)
Gross operating income	2,704	1,105	1,458	2,989	1,465	2,234	(634)	11,321
Cost of risk	(831)	(205)	(366)	(1)	(686)	(81)	(8)	(2,179)
Equity-accounted entities	9	-	1	73	90	17	-	190
Net income on other assets	6	21	1	(5)	81	3	(1)	107
Income before tax	1,887	921	1,095	3,057	950	2,173	(643)	9,438
Tax	(467)	(217)	(321)	(696)	(254)	(561)	222	(2,293)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(0)	-	7	1	(0)	-	-	7
Net income	1,421	704	781	2,361	696	1,612	(421)	7,153
Non controlling interests	(1)	(0)	(121)	(343)	(61)	(93)	(0)	(619)
Net income Group Share	1,420	704	660	2,018	635	1,519	(421)	6,534

付属資料 3 - クレディ・アグリコル S.A.部門別業績

クレディ・アグリコル S.A. - 部門別業績 (2024 年度第 3 四半期と 2023 年度)							
第 3 四半期)	Q3-24 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
€m							
Revenues	1,870	2,054	869	979	1,006	(290)	6,487
Operating expenses excl. SRF	(868)	(1,240)	(437)	(608)	(519)	(17)	(3,689)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	1,002	814	433	371	486	(307)	2,799
Cost of risk	(13)	(19)	(223)	(82)	(59)	(37)	(433)
Equity-accounted entities	33	6	23	-	-	(19)	42
Net income on other assets	(3)	(0)	(2)	0	0	0	(4)
Income before tax	1,019	800	231	290	427	(363)	2,404
Tax	(157)	(234)	(42)	(66)	(176)	199	(476)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	862	566	189	224	252	(164)	1,928
Non controlling interests	(135)	(46)	(17)	(10)	(58)	4	(262)
Net income Group Share	728	520	172	214	194	(161)	1,666
第 3 四半期)	Q3-23 (stated)						
	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
€m							
Revenues	1,656	1,888	883	996	1,024	(103)	6,343
Operating expenses excl. SRF	(718)	(1,139)	(424)	(589)	(504)	(2)	(3,376)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	937	748	460	407	520	(105)	2,967
Cost of risk	(0)	(13)	(224)	(70)	(121)	(2)	(429)
Equity-accounted entities	24	6	5	-	1	(12)	23
Net income on other assets	(5)	(2)	57	18	1	(0)	69
Income before tax	956	739	298	355	401	(119)	2,630
Tax	(221)	(203)	(77)	(79)	(118)	65	(633)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(0)	-	2	-	2
Net income	736	536	220	277	285	(55)	1,999
Non controlling interests	(114)	(48)	(17)	(12)	(60)	0	(251)
Net income Group Share	621	488	204	264	225	(55)	1,748

クレディ・アグリコル S.A. - 部門別業績（2024 年 9 ヶ月累計期間と 2023 年

9M-24 (stated)		9M-24 (stated)					
€m	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	5,603	6,543	2,605	2,912	3,090	(665)	20,089
Operating expenses excl. SRF	(2,435)	(3,741)	(1,333)	(1,801)	(1,580)	(88)	(10,978)
SRF	-	-	-	-	-	-	-
Gross operating income	3,168	2,802	1,272	1,111	1,510	(752)	9,111
Cost of risk	(18)	(25)	(653)	(295)	(213)	(53)	(1,256)
Equity-accounted entities	94	20	83	-	-	(65)	132
Net income on other assets	(23)	2	(3)	5	0	24	5
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	3,221	2,800	699	820	1,297	(846)	7,991
Tax	(659)	(717)	(138)	(185)	(435)	343	(1,790)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	-	-	-	-	-
Net income	2,563	2,083	560	635	862	(503)	6,201
Non controlling interests	(382)	(147)	(59)	(28)	(184)	(3)	(803)
Net income Group Share	2,180	1,936	502	607	678	(506)	5,397
9M-23 (stated)		9M-23 (stated)					
€m	AG	LC	SFS	FRB (LCL)	IRB	CC	Total
Revenues	5,133	5,844	2,717	2,891	2,975	(421)	19,140
Operating expenses excl. SRF	(2,148)	(3,298)	(1,224)	(1,742)	(1,491)	(20)	(9,922)
SRF	(6)	(312)	(29)	(44)	(40)	(77)	(509)
Gross operating income	2,979	2,234	1,465	1,105	1,444	(519)	8,709
Cost of risk	(1)	(81)	(686)	(205)	(362)	(2)	(1,338)
Equity-accounted entities	73	17	90	-	2	(45)	136
Net income on other assets	(5)	3	81	21	1	(0)	102
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	3,047	2,173	950	921	1,085	(566)	7,609
Tax	(699)	(561)	(254)	(217)	(320)	218	(1,832)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	1	-	(0)	-	7	-	7
Net income	2,349	1,612	696	704	772	(348)	5,785
Non controlling interests	(353)	(125)	(61)	(31)	(172)	(27)	(771)
Net income Group Share	1,996	1,486	635	673	600	(375)	5,014

付属資料 4 – 1 株当たりのデータ

クレディ・アグリコル S.A. – 1 株当たり利益、1 株当たり純資産額及び

ROTE (€m)		Q3-2024	Q3-2023	9M-24	9M-23
Net income Group share - stated		1,666	1,748	5,397	5,014
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(130)	(136)	(351)	(371)
- Foreign exchange impact on reimbursed AT1		(19)	-	(266)	-
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	1,517	1,612	4,780	4,643
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	3,031	3,043	3,007	3,031
Net earnings per share - stated	[A]/[B]	0.50 €	0.53 €	1.59 €	1.53 €
Underlying net income Group share (NIGS)		1,686	1,520	5,442	4,620
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	1,537	1,384	4,825	4,249
Net earnings per share - underlying	[C]/[B]	0.51 €	0.46 €	1.60 €	1.40 €

(€m)		30/09/2024	30/09/2023
Shareholder's equity Group share		71,386	69,416
- AT1 issuances		(6,102)	(7,235)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		1,042	1,644
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	[D]	66,326	63,825
- Goodwill & intangibles* - Group share		(17,778)	(17,255)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	[E]	48,548	46,570
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	3,040	3,052
NBV per share , after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	21.8 €	20.9 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	16.0 €	15.3 €

* including goodwill in the equity-accounted entities

(€m)		9M-24	9M-23
Net income Group share - stated	[K]	5,397	5,014
Impairment of intangible assets	[L]	0	0
IFRIC	[M]	-110	-542
Stated NIGS annualised	[N] = ([K]-[L]-[M])*2+[M]	7,233	6,866
Interests on AT1, including issuance costs, before tax, foreign exchange impact, annualised	[O]	-734	-495
Stated result adjusted	[P] = [N]+[O]	6,499	6,371
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ord. sh. - avg *** (3)	[J]	45,219	43,200
Stated ROTE adjusted (%)	= [P] / [J]	14.4%	14.7%
Underlying Net income Group share	[Q]	5,442	4,620
Underlying NIGS annualised	[R] = ([Q]-[M])*2+[M]	7,293	6,341
Underlying NIGS adjusted	[S] = [R]+[O]	6,559	5,846
Underlying ROTE adjusted(%)	= [S] / [J]	14.5%	13.5%

*** including assumption of dividend for the current exercise

(1) Underlying: see appendixes for more details on specific items

(2) Underlying ROTE calculated on the basis of an annualised underlying net income Group share and linearised IFRIC costs over the year

(3) Average of the TNBV not revalued attributable to ordinary shares, calculated between 31/12/2023 and 30/09/2024 (line [E]), restated with an assumption of dividend for current exercises

代替的業績指標⁵⁸

NBV（純資産額）（再評価されない）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に相当しています。

1 株当たり純資産額、1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。

2019 年第 1 四半期より、算定に用いる残高は、引当金控除前の顧客残高です。

この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

要注意債権はデフォルト状態の債権です。融資先は、次の 2 つの条件のいずれかが満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている 2019 年 5 月 20 日付の指令（EU）2019/879 は BRRD を修正し、2020 年 12 月 21 日付オールドナンス 2020-1636 によってフランス法に置き換えられました。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファに相当しま

⁵⁸APM は、財務諸表には表示されず、会計基準にも定義されていないが、基礎純利益グループ帰属分やRoTEなどの財務情報の提供において使用される財務指標です。これらは、会社の実際の業績を理解しやすくするために使用されます。各 APM 指標は、その定義において会計データとマッチングされます。

す。BRD2の下でMREL レシオは、リスク・ウェイト資産（RWA）並びにレバレッジ・エクスポージャーの比率（LRE）として表される、適格資本と債務の金額として計算されます。合計 MREL レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債（満期まで1年以上のもの）といったコーポレート・センター及びクレディ・アグリコル・ネットワークの関連機関発行の適格債務です。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損顧客貸出金総額で除して算出されます。

減損（または不良）債権比率

この比率は、個別に評価減された引当金控除前の顧客貸付総額を、顧客貸付総額の合計で除算したものです。

TLAC

金融安定理事会（FSB）は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）のバйлインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力（TLAC）レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がバйлインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行（したがってクレディ・アグリコル・グループ）に適用されます。アグリコル TLAC レシオの要件は、CRR2 を介して EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。

TLAC レシオの分子として適格なのは、当グループの規制上の自己資本のほか、クレディ・アグリコル S.A. が発行した満期まで1年以上の劣後債及び適格非優先シニア債です。

純利益グループ帰属分

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益グループ帰属分から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎純利益グループ帰属分

会社の実際の利益を分かりやすくするため、基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（非経常的項目や例外的項目）控除後の表示純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰せられる純利益グループ帰属分

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、年換算後の純利益グループ帰属分を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。年換算後の純利益グループ帰属分は、純利益グループ帰属分を年換算（第1四半期×4、上半期×2、9ヶ月累計期間×4/3）し、無形資産の減損を除外し、IFRIC の影響を線形化で年換算して各期間を修正したものに相当します。

免責事項

クレディ・アグリコル S.A. 及びクレディ・アグリコル・グループの 2024 年度第 3 四半期及び 2024 年 9 ヶ月累計期間の財務情報は、本プレゼンテーション、添付の付属資料、プレスリリースから構成されています。これらは、<https://www.credit-agricole.com/en/finance/financial-publications> で入手可能です。

本プレゼンテーションは、当グループの動向に関する情報として提供される将来の情報を含む場合があります。このデータは、2019 年 3 月 14 日の EU 委託法令 2019/980（第 1 章第 1 条 d）の意味での予測ではありません。

この情報は、一定の競争環境や規制環境における多くの経済的仮定に基づいたシナリオから作成されました。したがって、これらの仮定は、実際の結果が予測と異なる原因となりうるランダムな要因に左右されます。同様に、財務諸表は、特に時価や資産の減損の計算において、見積りに基づいています。

読者は、自らの判断を下す前に、これらすべてのリスク要因と不確実性を考慮に入れる必要があります。

適用基準及び比較可能性

2024 年 9 月 30 日に終了した 9 ヶ月間の数値は、欧州連合で採択され、同日に適用可能な IFRS 及び現在施行されている健全性規制に従って作成されています。本財務情報は、IAS 第 34 号「中間財務報告」で規定されている中間期の財務諸表に相当するものではなく、監査を受けていません。

注記：クレディ・アグリコル S.A. 及びクレディ・アグリコル・グループの連結範囲には、AMF（フランスの金融市場庁）に提出されたクレディ・アグリコル S.A. 2023 ユニバーサル登録文書と A.01 改訂版（クレディ・アグリコル・グループに関するすべての規制情報を含む）以降、重要な変更はありません。

表及び分析に含まれる数値の合計は、四捨五入のため、報告された合計と若干異なる場合があります。

2024 年 6 月 30 日時点で、インドスエズ・ウェルス・マネジメントは Degroof Petercam の買収を完了しており、現在、同社の長年の株主である CLdN Cobelfret と共同で Banque Degroof Petercam の株式の 65% を保有していることから、20% の株式を保有していました。2024 年 9 月 30 日現在、インドスエズ・ウェルス・マネジメントが保有する Degroof Petercam の株式は 76% に増加しています。

2024 年 6 月 30 日時点で、アムンディは、プライベート・アセットのマルチ運用投資ソリューションを提供する独立系資産運用会社 Alpha Associates の買収を完了しています。

決算スケジュール

2025 年 2 月 5 日	2024 年第 4 四半期及び 2024 年通年の決算発表
2025 年 4 月 30 日	2025 年第 1 四半期の決算発表
2025 年 5 月 14 日	総会
2025 年 7 月 31 日	2025 年第 2 四半期及び上半期の決算発表
2025 年 10 月 30 日	2025 年第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

問い合わせ先

クレディ・アグリコルのプレス対応担当者

アレクサンドル・バラット	+ 33 1 57 72 12 19	alexandre.barat@credit-agricole-sa.fr
オリヴィエ・タサン	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
マチルド・デュラン	+ 33 1 57 72 19 43	mathilde.durand@credit-agricole-sa.fr
ベネディクト・グヴェール	+ 33 1 49 53 43 64	benedicte.gouvert@ca-fnca.fr

クレディ・アグリコル S.A.IR 担当者

機関投資家	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
個人株主	+ 33 800 000 777 (フリーダイヤル – フランスのみ)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
セシル・ムートン	+ 33 1 57 72 86 79	mailto:cecile.mouton@credit-agricole-sa.fr

株式 IR 担当 :

ジャン＝ヤン・アセラフ	+ 33 1 57 72 23 81	jean-yann.asseraf@credit-agricole-sa.fr
フェティ・アズーグ	+ 33 1 57 72 03 75	fethi.azzoug@credit-agricole-sa.fr
オリアーネ・カンテ	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
ニコラ・イアンナ	+ 33 1 43 23 55 51	nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
レイラ・マムー	+ 33 1 57 72 07 93	leila.mamou@credit-agricole-sa.fr
アンナ・ピグレフスキー	+ 33 1 43 23 40 59	anna.pigoulevski@credit-agricole-sa.fr

信用投資家及び格付機関担当 :

グウェナエル・レレスト	+ 33 1 57 72 57 84	gwenaelle.lereste@credit-agricole-sa.fr
フローレンス・クインティン・デ・ケルカディオ	+ 33 1 43 23 25 32	florence.quintindekercadio@credit-agricole-sa.fr

すべてのプレスリリースは、www.credit-agricole.com-www.creditagricole.info をご覧ください。



Crédit_Agricole



クレディ・アグリコル・グループ



creditagricole_sa